

『三譯総解(第八)』ハンゲル表記満洲語文語索引*

王 海波
(嶺南師範学院)

キーワード: 『三譯総解』、ハンゲル表記、満洲語文語

1. はじめに

朝鮮時代の司譯院は、外交通訳を担うと同時に、外国語教育機関としても機能していた。ここには漢学・倭学・蒙学・女真学の四学が置かれ、満洲人の入関後には女真学が清学へと改められた。現存する清学書としては、読本類の『八歳兒』・『小兒論』・『三譯総解』・『清語老乞大』と、辞書類の『同文類解』・『漢清文鑑』が挙げられる(小倉 1914a: 44-45; 1914b: 257-262; Lie 1972: 19-21; 邵磊 2011: 290)。

清学書におけるハンゲル表記の満洲語文語は、必ずしも満洲文字で書かれた満洲語文語を一对一で転写したものではない。例えば、満洲語文語の CVwV (C=子音、V=単母音または二重母音) に相当する語形が、ハンゲル表記では1音節で書かれる場合もあれば、2音節で書かれる場合もある。また、満洲語文語の e に対応するハンゲル表記や io に対応するハンゲル表記などにも、それぞれ複数の対応形式が見られる。ハンゲル表記の満洲語文語は、満洲文字では表しきれない発音上の細部を、ある程度反映している可能性がある。清学書における満洲語文語の満洲文字表記とハンゲル表記の対応関係に関する研究としては、池上(1951; 1954; 1963)、今西(1958)、성백인(1984)、岸田(1989)、Ikegami(1990)、崔宰宇(1997)、菅野(2005)、邵磊(2011; 2016)、和田(2013)、王敵非(2013)、邵磊・多麗梅(2022; 2023)、邵磊・金龍軍(2022)、邵磊・林茶英(2022)、邵磊・王敵非(2022)、邵磊・任國俊(2023)などが挙げられる。

満洲文字とハンゲルの表記対応の問題を検討するには、ハンゲルで記された満洲語文語の語を、対応するメレンドルフ式転写にもとづいて配列し、整理する作業が有効であると考えられる。そこで本稿では、清学書『三譯総解』(全十巻)の第八巻(『三譯総解(第八): 曹孟德横槊賦詩』)にあるハンゲル表記の満洲語文語の語について、メレンドルフ式転写にもとづき索引を作成する。

2. ハンゲル表記満洲語文語の索引

次表は、清学書『三譯総解(第八)』におけるハンゲル表記の満洲語文語の語形を、メレンドルフ式転写のアルファベット順に配列したものである。

[1] 第1列には、満洲文字で書かれた語のローマ字転写(メレンドルフ式転写)と、その語の和訳を示している。和訳については、羽田(1937)、田村ほか(1966-1968)、福田(2008)等を参考にした。なお、和訳は原則として『三譯総解』中の文脈に限定した意味ではなく、一般的な語義に基づくものとする。

[2] 第1列の動詞については、原則として未完了形とその和訳を記載している。ただし、『三譯総解』における記録が未完了形以外の形式である場合には、第1列に未完了形と和訳を示すとともに、その下の行には、対応する語形を併記している。

* 本稿は、中国国家社会科学基金後期資助項目「満語支語言音系学研究」(課題番号 22FMZB009)の助成を受けた研究成果の一部である。

[3] 第2列には、『三譯総解』に見られるハングル表記の満洲語文語の語形を示している。
 [4] 第3列は、当該語形が『三譯総解』原書のどこに出現しているかを示したものである。たとえば「(8-1a-2-3)」は「第8巻-第1葉a面-第2行-第3語」を表す。「第X語」とは、ハングル表記の満洲語文語のみを対象に順に計数した場合のX番目に現れる語を指す(ハングル表記の満洲語文語以外の語は計数から除外する)。

表1：『三譯総解（第八）』ハングル表記満洲語文語索引

メンドルフ式転写と和訳	ハングル表記	出現箇所
abka 「空」	압카	(8-8b-1-1) (8-8b-6-1)
abkai 「空(そら)の」	압캐	(8-4a-1-6) (8-10a-6-4) (8-12a-5-5) (8-12b-2-7) (8-16a-4-1) (8-18b-4-5)
acabumbi 「合わせる；合わせる」	---	---
acabume	아차부머	(8-18b-6-2)
acambi 「会う；合う」	아참비	(8-16b-4-5) (8-22a-5-3)
acafi	아차피	(8-4b-6-4)
acinggiyambi 「揺り動かす」	아칭감비	(8-13b-1-8)
adali 「同様」	아다리	(8-9a-1-4) (8-9b-3-8) (8-16b-6-5) (8-17b-3-5)
adarame 「如何に」	아다라머	(8-2b-5-3) (8-20b-5-3)
afambi 「攻める、戦う」	---	---
afara	아파라	(8-20a-6-1)
agu 「老兄」	아구	(8-3a-1-4) (8-17a-5-4)
agūra 「豹尾槍(槍の一種)；兵器；機械」	아구라	(8-20a-2-4)
ai 「何；何の」	애	(8-3a-6-6) (8-11a-3-2) (8-13a-3-3) (8-17b-4-5) (8-19a-4-2) (8-20b-3-4) (8-21a-5-1)
aikabade 「もし」	애카바더	(8-12b-5-1) (8-13b-4-1)
ainambi 「何をする、どうする」	애남비	(8-1b-5-9)
ainci 「思うに」	앤치	(8-15a-3-5)
ainu 「なぜ」	애누	(8-2b-1-7) (8-15a-1-6)
aisilambi 「助ける」	---	---
aisilarengge ¹	애시라렁거	(8-12b-3-3)
akacuka 「傷ましい、悲しい」	아카츄카	(8-17a-2-2)
akdambi 「信頼する」	---	---
akdahabi	악다하비	(8-11b-6-3)

¹ 母音調和に従えば、aisilarenggeではなく、aisilaranggeのはずである。しかし、『三譯総解』の当該箇所では、aisilarenggeに対応する形で現れている。なお、岸田(1997:237)によれば、『滿文三国志』および『滿漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれもaisilaranggeである。

afaranggeの清代文献における出現例は他にもあり、例えば、『大清全書』におけるfalabure niyalma fudere aisilarangge「助送流犯。」などが挙げられる。

akū 「無い」	아쿠	(8-1a-6-4) (8-4a-4-1) (8-5b-4-3) (8-8b-2-1) (8-11a-4-8) (8-14a-3-6) (8-18b-1-4) (8-21a-2-7) (8-21a-5-3)
alanggimbi 「告げに行かせる」	---	---
alanggire	아랑기러	(8-6b-1-5)
alanjimbi 「告げに来る」	---	---
alanjime	아란지머	(8-4b-1-1) (8-5a-2-2)
alin 「山」	아린	(8-8b-6-4) (8-9b-3-1) (8-13b-1-3) (8-18a-1-1) (8-18b-2-1)
ališambi 「悶える」	---	---
ališame	아리샤머	(8-17b-6-1)
ališara	아리샤라	(8-17a-3-2)
aliyambi 「待つ；後悔する」	---	---
aliyaha	아라하	(8-22a-3-6)
ama 「父」	아마	(8-22a-3-1)
amai 「父の」	아매	(8-21b-5-8)
amargi 「北；後ろ」	아말기	(8-2a-1-6) (8-9b-5-6) (8-16a-2-2)
amasi 「後ろに」	아마시	(8-1a-5-1)
amba 「大きい」	암바	(8-7b-6-1) (8-8b-3-2) (8-9a-3-2) (8-10a-1-2) (8-16a-5-4) (8-19a-2-1)
ambasa 「大臣たち」	암바사	(8-5a-5-4) (8-13b-2-3) (8-15b-4-4)
ambasai 「大臣たちの」	암바새	(8-12a-1-5)
ambula 「多い；大いに」	암부라	(8-3b-4-4) (8-4a-5-1) (8-5a-4-2) (8-6b-2-2) (8-12a-1-2) (8-12b-6-2) (8-13b-6-6) (8-14b-3-6) (8-16b-1-1) (8-17a-1-2) (8-20a-3-5) (8-20b-2-1) (8-21a-3-1) (8-21a-4-2)
amcambi 「追う」	---	---
amcarakū	암차라쿠	(8-22a-3-8)
andande 「瞬時に」	안단더	(8-5a-1-2)
angga 「口」	앙가	(8-3a-2-5) (8-6a-6-1)
aniya 「年」	아냐	(8-8a-6-1)
antaha 「客」	안타하	(8-17b-2-2)
arambi 「作る；書く；～のふりをする」	---	---
arafi	아라피	(8-20a-4-5)
araha	아라하	(8-8a-1-1) (8-14a-6-4)
arame	아라머	(8-6a-2-5)
arbun 「容姿；様子」	알분	(8-16a-6-3)
arga 「方法；計略」	알가	(8-2a-5-5) (8-2b-1-4) (8-3a-2-1) (8-3a-6-5) (8-7a-6-2)
arki 「焼酎、酒」	알키	(8-17a-4-3)
ashan 「傍ら」	앗한	(8-15a-2-3)

ašumbi 「口に含む」	---	---
ašuha ²	아슈하	(8-18b-3-3)
ba 「所；里(距離単位)」	바	(8-1b-2-5) (8-9b-6-4)
ba 「漢語霸」 (ts'ang ba 「臧霸」)	바	(8-7a-1-3) (8-7a-4-7)
baba 「方々(ほうぼう)」	바바	(8-4b-2-8)
babe 「所/里を」	바버	(8-10b-3-7) (8-19b-3-8)
babi 「～所がある；～里ある」	바비	(8-13b-5-6)
baci 「所/里より」	바치	(8-19a-1-5) (8-19b-3-4)
bade 「所/里に」	바더	(8-3a-2-8) (8-16a-3-2) (8-21b-6-1)
bahambi 「得る」	바함비	(8-16b-5-3)
baha (完了)	바하	(8-6a-4-5) (8-10b-3-8) (8-11a-4-3) (8-13b-5-1) (8-14b-1-5)
bahafi	바하피	(8-2b-5-4) (8-7b-1-4) (8-11b-4-4) (8-17b-2-4)
bahara	바하라	(8-3a-1-1) (8-10b-2-1)
bahanambi 「できる」	---	---
bahanara	바하나라	(8-3a-4-7)
bai 「所/里の」	배	(8-5a-2-6) (8-19a-6-9)
baili 「恩情」	배리	(8-18a-4-1)
baimbi 「探す；求める」	---	---
baire	배리	(8-21b-6-5)
baita 「事」	배타	(8-6b-1-3)
baitalambi 「使う」	---	---
baitalara	배타라라	(8-19a-3-3)
bakcilambi 「向かい合う；敵対する」	---	---
bakcilame	박치라머	(8-16b-4-3)
banjimbi 「暮らす；生む；生まれる」	---	---
banjifi	반지피	(8-21a-4-4)
banjiha	반지하	(8-14a-3-7)
banjiki	반지키	(8-11a-6-4)
bargiyambi 「収める」	---	---
bargiyafi	발가피	(8-19b-5-2)
bargiyaha	발가하	(8-16a-2-1)

² 岸田 (1997: 241) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所の語形はいずれも ašuka である。また、岸田が指摘しているように、動詞語幹 ašu- に完了接辞が付加される形式は、通常、ašuka であり、ašuha ではない。岸田は『満洲実録』における例 (上原 1960: 268 参照) および『大清全書』における出現例 ašuka be tucibumbi 「吐哺。」に言及している。その他にも出現例がある。

なお、筆者の確認によれば、『満露辞典』(Зарков 1875: 29) においても、ašu- に付く完了接辞は -ka である。Durrant (1978: 42) や竹越 (2021: 154) なども語形 ašuka に言及している。一方、松村 (1998: 128)、Stary (2008: 101, 103) などは語形 ašuha に言及している。

baru 「～に向かって」	바루	(8-3b-6-8) (8-5a-3-7) (8-9b-3-3) (8-13a-4-4) (8-13b-2-5) (8-15b-4-6)
baturu 「勇ましい；勇者」	바투루	(8-10b-6-4)
bayan 「富んだ」	바얀	(8-10b-4-3) (8-11a-5-6)
be 「を」	버	(8-1a-3-8) (8-1b-1-5) (8-1b-3-7) (8-1b-5-8) (8-2a-3-7) (8-2a-3-10) (8-2a-5-6) (8-2b-1-5) (8-2b-3-2) (8-2b-4-6) (8-2b-6-5) (8-3a-1-2) (8-3a-2-2) (8-3b-2-2) (8-4a-3-2) (8-4b-2-7) (8-5a-5-5) (8-5b-1-3) (8-6a-6-2) (8-6b-4-7) (8-6b-6-7) (8-7a-1-4) (8-7a-5-7) (8-7b-1-3) (8-7b-4-5) (8-7b-5-2) (8-8a-1-3) (8-8a-2-2) (8-8a-3-6) (8-8b-5-7) (8-9a-6-4) (8-9b-1-4) (8-9b-5-9) (8-10a-4-2) (8-10a-4-5) (8-10a-5-5) (8-10a-6-6) (8-10b-4-5) (8-11a-1-2) (8-11a-4-2) (8-11b-1-4) (8-12a-4-3) (8-12a-5-7) (8-13a-6-2) (8-13b-1-7) (8-13b-4-5) (8-14a-1-6) (8-14a-4-6) (8-14b-1-4) (8-14b-2-3) (8-14b-6-3) (8-15a-3-4) (8-15b-2-2) (8-15b-3-5) (8-15b-6-4) (8-15b-6-8) (8-16a-1-4) (8-16a-1-8) (8-17a-2-5) (8-17a-3-3) (8-17a-5-5) (8-17b-1-4) (8-17b-2-3) (8-17b-4-3) (8-17b-6-3) (8-18a-1-3) (8-18a-4-2) (8-18a-6-3) (8-18b-2-3) (8-18b-2-7) (8-18b-4-2) (8-19a-3-2) (8-19b-5-1) (8-19b-6-5) (8-20a-5-5) (8-20a-6-5) (8-20b-4-2) (8-21a-2-1) (8-21a-5-7) (8-21b-3-5) (8-21b-3-7) (8-21b-5-10) (8-22a-3-2) (8-22a-3-5) (8-22a-6-2)
be 「漢語北」 (sai be 「塞北」)	버	(8-16a-3-1)
bederembi 「戻る、帰る、退く」	---	---
bedereme	버드러머	(8-22a-6-5)
belhei 「粒の」 ³	벌헤	(8-3a-6-3)
beri 「弓」	버리	(8-8a-3-5)
beye 「体；自分」	버여	(8-2a-5-2) (8-2b-2-3) (8-3a-1-6) (8-11b-5-3)
bi 「私」	비	(8-1a-3-1) (8-1b-6-3) (8-2a-3-1) (8-2a-4-3) (8-2b-1-6) (8-3b-6-2) (8-5a-6-2) (8-6a-4-7) (8-6b-3-4) (8-8b-4-4) (8-10a-2-3) (8-10b-3-1) (8-11b-1-5) (8-12b-6-5) (8-13b-3-2) (8-14a-2-5) (8-16b-1-3) (8-17b-1-6) (8-22a-1-4)

³ 「米粒」は『大清全書』と『増訂清文鑑』ではそれぞれ belhe と belge と綴られている。『大清全書』における見出し語 belhe 「(前略) 米粒之粒。」および『増訂清文鑑』における見出し語 belge 「米粒」を参照されたい。『三譯総解』の当該箇所における当該語＋属格標識では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも belhei に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 231) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における当該語＋属格標識はいずれも belgei である。

bi 「ある ; いる」	비	(8-11a-3-3) (8-13a-3-4)
bici	비치	(8-2a-1-3) (8-18b-6-5)
bicibe	비치버	(8-5b-4-4)
bihe	비허	(8-2a-2-1) (8-4a-2-4) (8-14a-3-8) (8-17b-3-2)
bihede	비허더	(8-6b-1-4)
bisire	비시러	(8-2b-3-1) (8-6b-4-5) (8-10b-6-1) (8-14b-4-2) (8-21b-4-2)
bisirengge	비시렁거	(8-12b-1-4)
bihan 「野原」 ⁴	비한	(8-17b-1-1) (8-18a-1-2)
bing 「漢語屏」 ⁵ (nan bing san 「南屏山」)	빙	(8-9b-2-4)
birai 「川の」	비래	(8-14a-5-6)
bithe 「本 ; 字 ; 学識」	빔허	(8-7b-6-7) (8-9b-1-1) (8-11b-3-1)
biya 「月」	바	(8-8b-6-6) (8-17b-3-3) (8-18a-5-1) (8-20b-6-4)
biyai 「月の」	배	(8-8a-6-3) (8-15a-3-2)
boco 「色 ; 顔色 ; 女色」	보초	(8-8b-1-3)
bodombi 「考える ; 計算する」	---	---
bodoci	보도치	(8-4a-3-3)
bodome	보도머	(8-9b-1-7)
bodorakū	보도라쿠	(8-13a-6-3)
boljon 「波」	볼존	(8-8b-2-4)
boo 「家 ; 部屋」	보	(8-19b-5-4)
boode 「家/部屋に ; 家/部屋で」	보더	(8-22a-6-4)
booi 「家/部屋の」	부	(8-10a-3-3)
bu 「漢語布」 (lioi bu 「呂布」)	부	(8-15b-6-7)
bucembi 「死ぬ」	---	---
bucehe	부쳐허	(8-21b-1-5)
bucere	부쳐러	(8-1b-6-4)
buda 「飯」	부다	(8-18b-4-1)
buhū 「鹿」	부후	(8-17a-6-2)

⁴ 当該語は『増訂清文鑑』では bigan と綴られている。bigan 「野」などの見出し語を参照されたい。一方、『大清全書』には bigan と bihan の両綴りが収録されている。bigan 「野外之野。」や bihan i niongniyeha 「鴻雁。」などの見出し語を参照されたい。bihan i niongniyeha における niongniyeha は niongniyaha の誤記である可能性が高い。なお、『大清全書』には bikan tala 「草野。」も収録されているが、bikan は bigan の誤記であると考えられる。

⁵ 『對音輯字』(下巻第3葉b面)では、漢字「屏」に対応する満洲文字は ping である。一方、『三譯総解』の当該箇所において「南屏山」の「屏」を表す語は、bing に対応する形で現れている。なお、岸田(1997: 235)によれば、『滿文三國志』および『滿漢合璧三國志』では、対応箇所における語形はそれぞれ bing と ping である。

なお、『三譯総解』における wei ping 「圍屏」の「屏」(1-9b-6-1)は、bing ではなく、ping の形で現れている。

buksibumbi 「伏兵を置かせる」	---	---
buksibufi	복시부피	(8-8a-3-7)
bumbi 「与える」	---	---
bume	부머	(8-20b-1-5)
bure	부러	(8-14a-2-2)
buyembi 「愛する；願う」	부엨비	(8-3a-1-3) (8-3b-2-3)
buyerengge	부여렁거	(8-14b-3-2)
cacumbi 「神前に酒を撒く；血を滴らす」	---	---
cacufi	차츄피	(8-15b-2-5)
cahin 「井戸枠；穀物倉」	차힌	(8-20a-3-2)
canjurambi 「揖礼を行う」	---	---
canjurafi	찬जू라피	(8-3b-5-1)
cenghiyang 「漢語丞相」	청향	(8-6a-1-4) (8-12b-4-4) (8-19a-4-1)
ci 「より」	치	(8-2b-5-2) (8-4a-6-2) (8-5b-1-6) (8-6a-2-1) (8-7a-4-4) (8-8a-5-8) (8-10a-2-8) (8-15a-4-4) (8-17b-5-3)
cihai 「任意に」	치해	(8-16a-5-1)
cimari 「明日；朝」	치마리	(8-16b-6-2)
coo 「漢語喬」 ⁶ (coo da loo 「喬大老」) ⁷ (juwe coo 「二喬」)	초	(8-13b-6-2) (8-14b-2-2)
coo 「漢語雀」 ⁸ (tung coo tai 「銅雀台」)	초	(8-14a-6-6)

⁶ 『對音輯字』（下巻第 37 葉 a 面）では、漢字「喬」に対応する満洲文字は kiyoo である。一方、『三譯総解』において当該部分は、coo に対応する形で現れている。なお、岸田（1997: 238, 239）によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はそれぞれ coo と ciyoo である。

⁷ 岸田（1997: 238）によれば、『三譯総解』の coo da loo に対応する漢文『三国志通俗演義』嘉靖本と李卓吾本の当該部分の漢語はそれぞれ「橋大老」と「喬公」である。

また、『満漢合璧三国志』の当該箇所における漢語は「喬大老」であり、『三譯総解』の当該箇所における朝鮮語訳の漢字の部分は、「喬公」である。

以上を次表のとおり整理することができる。

表 2：『三譯総解』（8-13b）における「喬公」（coo da loo、초다로）および『三国志通俗演義』・『満文三国志』・『満漢合璧三国志』における対応語

	漢語	朝鮮語	満洲語
『三譯総解』	---	漢字表記：喬公	満洲文字表記：coo da loo ハングル表記：초다로
漢文『三国志通俗演義』嘉靖本	橋大老	---	---
漢文『三国志通俗演義』李卓吾本	喬公	---	---
『満文三国志』	---	---	満洲文字表記：coo da loo
『満漢合璧三国志』	喬大老	---	満洲文字表記：ciyoo da loo

⁸ 『對音輯字』（下巻第 34 葉 b 面）では、漢字「雀」に対応する満洲文字は ciyo である。一方、『三譯総解』において「銅雀臺」を表す語は、tung coo tai に対応する形で現れている。なお、岸田（1997: 239）によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はそれぞれ tung coo tai と tung ciyo tai である。

cooha 「兵；軍」	쑤하	(8-2b-4-1) (8-4b-5-4) (8-5a-6-3) (8-6a-4-4) (8-6b-4-6) (8-6b-6-6) (8-10a-2-6) (8-10b-4-4) (8-10b-6-5)
coohai 「兵/軍の」	쑤해	(8-2b-2-4) (8-5b-3-3) (8-9b-1-2) (8-11b-3-2) (8-20a-2-3)
cuwan 「漢語船」	쑤	(8-4a-6-4) (8-7b-6-2) (8-8a-2-1) (8-8a-2-8) (8-8a-4-3) (8-8b-3-3) (8-9a-3-3) (8-15b-1-4)
da 「本；根本；長；矢の序数詞；度(長さの単位)」	다	(8-21b-5-11)
da 「漢語大」 (coo da loo 「喬大老」)	다	(8-13b-6-3)
dade 「初めに」	다더	(8-19b-3-1)
dagilabumbi 「準備させる」	---	---
dagilabufi	다기라부피	(8-8b-4-1)
dagilambi 「準備する」	---	---
dagilame	다기라머	(8-20a-6-6)
dahambi 「付き従う；投降する；従う」	---	---
daha (命令)	다하	(8-16b-2-1)
dahahabi	다하하비	(8-18b-5-1)
dahame	다하머	(8-2b-3-3) (8-10a-1-3) (8-12b-1-1)
dailambi 「征伐する」	---	---
dailame	대라머	(8-5b-1-4)
dain 「戦い」	덴	(8-19a-2-2)
dalin 「岸」	다린	(8-14a-6-1)
damu 「もっぱら；ただ；しかし」	다무	(8-2b-2-1) (8-10b-1-3) (8-17a-4-2)
dasambi 「改める；治す；治める」	---	---
dasame	다사머	(8-19b-4-1) (8-20a-2-5)
dasan 「政」	다산	(8-19b-6-3)
de 「に；で」	더	(8-1a-6-2) (8-1b-1-7) (8-2a-1-1) (8-2a-1-7) (8-2b-1-1) (8-2b-4-3) (8-3a-2-4) (8-3a-5-3) (8-4a-6-5) (8-4a-6-9) (8-4b-3-2) (8-5a-1-4) (8-5b-2-7) (8-6a-3-3) (8-6a-4-6) (8-6a-5-6) (8-6b-4-4) (8-8a-2-6) (8-8b-3-5) (8-8b-5-3) (8-8b-5-9) (8-8b-6-5) (8-9a-2-3) (8-9a-3-6) (8-9a-4-4) (8-10a-3-5) (8-10b-4-1) (8-11b-2-4) (8-11b-6-2) (8-12a-6-4) (8-12a-6-6) (8-12b-3-2) (8-13a-1-4) (8-13a-3-2) (8-13b-5-2) (8-14a-3-4) (8-14a-6-2) (8-14a-6-8) (8-14b-2-6) (8-14b-4-3) (8-15a-6-4) (8-15b-2-4) (8-16a-3-7) (8-16a-4-3) (8-16b-4-2) (8-17b-4-7)

		(8-18a-5-4) (8-18b-4-4) (8-20a-3-3) (8-20b-1-2) (8-20b-6-7) (8-21b-4-3)
dekdembi 「浮く；鳥が飛び立つ；日が昇る；起こる」	---	---
dekdefi	덕더피	(8-15a-4-5)
dele 「上(に)；皇上」	더러	(8-8a-3-1) (8-8a-4-5) (8-8b-3-4) (8-9a-3-5) (8-15b-1-5)
den 「高い」	던	(8-18b-2-2) (8-20a-1-3)
dergi 「上；東」	덜기	(8-8b-6-3) (8-9b-4-1)
deribumbi 「始める」	---	---
deribufi	더리부피	(8-8b-4-3)
deriburakū	더리부라쿠	(8-2a-5-7)
deyembi 「飛ぶ」	---	---
deyeme	더여머	(8-14b-5-7) (8-18a-6-1) (8-21a-1-3)
dobori 「夜」	도보리	(8-6a-5-1) (8-7a-2-4) (8-12a-2-4) (8-15a-1-7) (8-22a-2-2)
dolo 「内；心中；腹中」	도로	(8-5b-2-2) (8-5b-3-4) (8-17a-5-6)
dolori 「内側；心密かに」	도로리	(8-10a-1-4)
dombi 「鳥が木にとまる」	---	---
dore	도리	(8-18b-1-2) (8-21a-2-5)
dombi 「川を渡る」	---	---
dome	도머	(8-18a-1-4)
donjimbi 「聴く」	---	---
donjifi	돈지피	(8-14b-6-4)
dorgi 「内」	돌기	(8-4b-5-3) (8-10a-5-4) (8-12b-2-4) (8-17b-5-2)
dosimbi 「入る；進む；進撃する」	---	---
dosika	도시카	(8-16a-3-4)
du 「漢語都」 (sioi du 「許都」)	두	(8-5a-3-6)
dubembi 「果てる」	---	---
dubetele 「果てるまで」 ⁹	두버터러	(8-2a-5-3) (8-11b-5-4)
duibulembi 「比較する」	---	---
duibuleci	뒤부러치	(8-16b-6-1)
duin 「四」	뉘	(8-9b-6-3) (8-10a-5-2) (8-13b-3-5)
dulimbade 「中央に/で」	두림바더	(8-7b-6-4)
dulimbi 「徹夜する」	---	---

⁹ 岸田 (1997: 85) によれば、当該語は『増訂清文鑑』・『大清全書』・『滿漢同文全書』・『滿漢事類集要』ではそれぞれ *dubentele*, *dubentere*, *dubentele*, *dubentele* と綴られている。しかし、筆者が参照した『大清全書』には、*dubentele* と *dubentere* の両綴りが収録されている。それぞれ見出し語 *elgiyen aniya oci dubentele ebime jembi* 「樂歲終身飽。」と *dubentere* 「到底。至終。」を参照されたい。

なお、*dubentele-* は動詞語幹 *duben-* に限界連用接辞 *-tAIA* が付いた形式であると考えられる (Yang 2025: 54, 63, 98)。

dulime	두리머	(8-6a-5-2) (8-7a-2-5)
dulin 「半分」	두린	(8-12a-2-5)
dung 「漢語東」 (liyoo dung 「遼東」)	둥	(8-16a-3-6)
ebsi 「～以來；こちらへ」	업시	(8-5b-1-7) (8-6a-2-2) (8-10a-3-1)
ecike 「父の弟」	어치커	(8-3b-6-6)
ecikei 「父の弟の」	어치케	(8-2a-3-5)
edun 「風」	어둔	(8-8b-1-6)
efimbi 「遊ぶ」	---	---
efire	어피러	(8-21a-5-6)
efulembi 「壊す；鹹す」	어푸럼비	(8-2b-1-8) (8-21a-5-8)
efulehe	어푸러허	(8-15b-6-5)
ehe 「悪い」	어허	(8-10a-4-1)
ejen 「君主；主」	어전	(8-11b-5-6)
ekšembi 「急ぐ」	---	---
ekšeme	억셔머	(8-1a-2-2)
ekšere	억셔러	(8-6b-1-1)
eldembi 「光る、輝く」	---	---
eldekengge	얼더깁거	(8-9a-1-2)
elembi 「足りる；満足する； 満腹する」	어럼비	(8-14b-3-3)
elerakū	어러라쿠	(8-18b-2-4) (8-18b-2-8)
emgeri 「一度；既に」	엄거리	(8-21a-6-2)
emgi 「一緒に」	엄기	(8-2b-2-5) (8-7a-5-2) (8-11a-5-4) (8-12a-2-1)
emu 「一」	어무	(8-1b-3-1) (8-2a-5-4) (8-3b-3-7) (8-14b-5-2) (8-19a-1-2)
enenggi 「今日」	어녕기	(8-11b-1-1) (8-22a-5-4)
erde 「朝；早い」	얼더	(8-16b-6-3)
erdemu 「才徳」	얼더무	(8-4a-1-5)
ere 「この；これ；この人」	어러	(8-1b-1-3) (8-2a-6-2) (8-4a-3-1) (8-7a-6-3) (8-8b-5-1) (8-9b-6-2) (8-10b-3-2) (8-15a-1-4) (8-15b-5-2) (8-16a-6-1) (8-19a-4-4) (8-20b-3-6)
ergen 「息；命」	얼건	(8-1b-5-7) (8-3b-5-4) (8-11a-1-1) (8-19a-3-1)
ergi 「方向」	얼기	(8-1a-6-1) (8-8a-2-5) (8-9a-4-3) (8-13a-1-3)
erimbi 「掃く」	---	---
erime	어리머	(8-10a-6-1)
erin 「時」	어린	(8-12a-5-6) (8-15a-6-2) (8-17b-4-6) (8-19a-3-4)
etenggi 「強い」	어탕기	(8-10b-4-6)
etuku 「服」	어투쿠	(8-9a-5-2) (8-17a-5-2)
etumbi 「着る」	---	---
etufi	어투피	(8-9a-5-3)

faidambi 「整列する、並ぶ」	---	---
faidaha	패다하	(8-8a-2-7)
fakcambi 「離れる、別れる」	---	---
fakcafi	팍차피	(8-4a-6-3) (8-7a-4-5)
fakcaha	팍차하	(8-4a-5-3)
fan 「漢語樊」 (fan san 「樊山」)	판	(8-9b-5-4)
fe 「古い」	퍼	(8-1a-3-6) (8-18a-3-6)
fei 「漢語肥」 (ho fei 「合肥」)	페	(8-19b-3-3) ¹⁰
fejergi 「下」	퍼절기	(8-10a-6-5) (8-10b-5-4) (8-16a-4-2) (8-18b-4-6)
fejile 「下(に)」	퍼지러	(8-4a-2-1)
feniyen 「群れ」	퍼년	(8-14b-5-3)
ferguwecuke 「奇とすべき」	필귀츄커	(8-16b-1-2)
ficakū 「簫」	피차쿠	(8-17b-2-7)
ficambi 「簫や笛を吹く；口笛を吹く」	---	---
ficara	피차라	(8-17b-3-1)
firgembumbi 「秘密を洩らす」	---	---
firgemburahū	필검부라후	(8-12b-5-2)
fithembi 「楽器/背式骨を弾く；綿を打つ；火が弾ける、爆ぜる」	---	---
fitheme	핀허머	(8-17b-2-6)
fon 「時」	폰	(8-8a-5-2)
fonjimbi 「問う」	---	---
fonjifi	폰지피	(8-15a-1-2)
fonjime	폰지머	(8-1a-2-3)
forombi 「向く；振り向く；紡ぐ」	---	---
forofi	포로피	(8-1a-5-2) (8-13b-2-6)
fu 「壁、塀、垣」	푸	(8-20a-1-4)
fu 「漢語馥」 (lio fu 「劉馥」)	푸	(8-19b-1-5) (8-20b-2-5) (8-20b-6-2) (8-21b-1-4) (8-21b-3-4) (8-21b-5-2)
fulung 「漢語伏龍」	푸룽	(8-4a-1-2)
funcembi 「余る」	---	---
funceme	푼쳐머	(8-8a-3-3) (8-20a-4-4)
funde	푼더	(8-5b-5-3)
fung 「漢語奉」	푼	

¹⁰『三譯総解』(8-19b-3-2/3)における ho fei は、原文の朝鮮語訳では「合肥」であるが、『満漢合璧三国志』の対応箇所(10-52a-1-6/7)の漢語は「合肥」である。

(siyan fung 「先鋒」)		(8-7a-2-2)
fungts'u 「漢語鳳雛」 ¹¹	풍추	(8-4a-1-3)
furdan 「関口；傷口；針で突いた穴；蟠った根」	폴단	(8-6a-5-5) (8-6b-4-3)
gaha 「烏」	가하	(8-14b-5-4) (8-15a-1-5) (8-18a-5-7) (8-21a-1-1)
gaimbi 「とる」	---	---
gaifi	개피	(8-5b-1-1) (8-14b-2-4) (8-15b-1-3)
gaijara	개자라	(8-14a-4-5)
gaitai 「突然」	개태	(8-14b-5-1) (8-19a-1-1)
gajimbi 「持って/取って/連れてくる；取り/連れに来る」 ¹²	---	---
gaji	가지	(8-15b-1-1)
gamambi 「持って/取って/連れていく」	---	---
gamafi	가마피	(8-21b-6-2)
gamame	가마머	(8-22a-6-3)
garhan 「枝；支流；友達；十二支の支；単一；部隊；扉」 ¹³	갈한	(8-18b-1-3) (8-21a-2-6)
gashūmbi 「誓う」	---	---
gashūfi	갓후피	(8-2a-5-1) (8-10a-5-1)
gebu 「名」	거부	(8-11a-2-2) (8-19b-1-4) (8-19b-2-2)
gecuheri 「(漢訳)蟒緞；錦」	거츠히리	(8-9a-4-5)
gejureku 「搾取者；悪戯な」	거쥬러쿠	(8-10a-4-4)
gelembi 「恐れる」	---	---
gelembihe	거림비허	(8-2a-1-2)
gelgun ¹⁴ (gelgun akū 「敢えて」)	걸군	(8-21a-5-2)
geli 「また」	거리	(8-7b-4-7) (8-13a-3-5) (8-13b-2-1) (8-15a-5-2)
gemu 「皆」	거무	(8-1b-3-8) (8-8a-2-3) (8-9b-1-5) (8-9b-5-10) (8-11b-3-4) (8-11b-5-5) (8-13a-2-1)
genembi 「行く」	---	---
gene	거너	(8-7a-2-6) (8-22a-6-6)

¹¹ 『對音輯字』(上巻第 11 葉 b 面)では、漢字「雛」に対応する満洲文字は cu である。一方、『三譯総解』において「鳳雛」は、fungts'u に対応する形で現れている。

¹² gaji- の意味に関しては、早田輝洋 (1993) を参照されたい。

¹³ 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても gargan と綴られている。なお、岸田 (1997: 241) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所の語形は、それぞれ印刷不鮮明と gargan である。

¹⁴ 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても gelhun と綴られている。なお、岸田 (1997: 243) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所の語形は、それぞれ gelgun と gelhun である。성백인 (1984: 27) によれば、『三譯総解』における towa 「火」、labdo、gelgun akū、targū は主として順治初年以前の文献に見られるものである。

geneci	거너치	(8-5b-6-1) (8-6b-3-3)
genefi	거너피	(8-6a-5-7)
genehe	거너히	(8-7a-5-3)
geneki	거리키	(8-3a-3-2)
genere	거너러	(8-2b-6-3) (8-14b-6-1)
generengge	거너렁거	(8-17a-1-1)
genggiyen 「清い ; 聡明な」	경견	(8-8b-1-4) (8-15a-3-3) (8-17b-4-1) (8-18a-5-3) (8-20b-6-6)
gerembi 「空が明るくなる」	---	---
gereke	거리커	(8-15a-4-1)
geren 「多くの ; すべての ; 衆人」	거런	(8-5a-5-2) (8-8a-1-5) (8-8b-5-4) (8-10b-6-6) (8-11a-5-1) (8-11b-2-1) (8-12a-1-4) (8-12b-6-7) (8-13b-2-2) (8-15b-4-3) (8-18b-6-1) (8-19a-2-5)
gese 「~のような」	거서	(8-3a-6-4) (8-9a-2-7) (8-13a-2-6) (8-13a-5-5) (8-13b-1-5)
geterembumbi 「清潔にする ; 全滅させる」	---	---
geterembume	거터럼부머	(8-10a-4-3)
getuken 「明白な」	거투컨	(8-8b-1-5) (8-10a-6-2)
gida 「槍」	기다	(8-9a-5-4) (8-15a-6-6) (8-15b-3-4) (8-15b-5-3)
gidalambi 「槍で突く」	---	---
gidalara	기다라라	(8-21b-1-1)
giran 「死体」	기란	(8-21b-5-9) (8-22a-6-1)
gisun 「言葉」	기순	(8-1b-1-4) (8-3b-3-9) (8-4a-3-5) (8-4b-4-2) (8-5b-6-3) (8-11b-1-3) (8-16b-3-2) (8-19a-4-6) (8-20b-4-1) (8-21a-3-3)
gisurembi	기수럼비	(8-4b-6-5)
gisurecibe	기수러치버	(8-18a-3-3)
gisurehe	기수러히	(8-11b-1-2)
gisurere	기수러러	(8-12b-4-6) (8-13a-3-1)
gisurerengge	기수러렁거	(8-5b-3-5)
giyalabumbi 「隔てさせる ; 隔てられる」	---	---
giyalabufi	가라부피	(8-18a-3-2)
giyang 「漢語江」	강	(8-1b-2-2) (8-2a-1-4) (8-7b-3-5) (8-9a-2-2) (8-10b-2-3) (8-10b-3-3) (8-11a-3-4) (8-12a-3-3) (8-13b-4-2) (8-14b-1-1) (8-15b-2-3)
goidambi 「久くなる」	---	---
goidaci	괴다치	(8-7a-3-1)
goidame	괴다머	(8-20b-1-3)
golmin 「長い」	골민	(8-9a-2-1)

golombi 「驚く」	---	---
golofi	고로피	(8-5a-4-3)
goro 「遠い」	고로	(8-3a-2-7)
gosimbi 「慈しむ、愛する；疼く」	---	---
gosiha	고시하	(8-6a-1-6)
gu 「玉」	구	(8-2b-4-4)
gucu 「友達」	구추	(8-1a-3-7) (8-18a-3-1)
gung 「漢語功」	궁	(8-11a-2-1) (8-20b-2-2)
gung 「漢語公」 (geren gung 「諸公」) (ilan gung 「三公」) (jeo gung 「周公」)	궁	(8-6b-4-8) (8-10b-6-7) (8-11a-5-2) (8-11b-2-2) (8-13a-1-1) (8-22a-4-2) (8-18b-3-2)
gurun 「国」	구룬	(8-10a-3-2) (8-10b-4-2) (8-14a-3-3)
guwan 「漢語関」 (san guwan 「散関」)	관	(8-6a-5-4) (8-6b-4-2)
guwe 「漢語国」 (pei guwe hiyang 「沛国相」)	귀	(8-19a-6-6)
guwebumbi 「赦免する」	---	---
guwebuhe	귀부허	(8-7a-6-1)
guwembi 「免れる」	꺄비	(8-2b-6-1)
guwehe	꺄허	(8-3b-6-1)
guwembi 「鳴く；鳴る」	꺄비	(8-15a-2-1) (8-15a-4-6)
guweme	꺄머	(8-14b-5-5)
gūnimbi 「思う」	구님비	(8-17a-6-1) (8-18a-4-3)
gūniha	구니하	(8-14a-5-2)
gūnhangge	구니항거	(8-18a-2-1)
gūnime	기니머	(8-2a-3-8)
gūnirengge	구니렁거	(8-17b-4-4)
gūnin 「心；意；考え」	구닌	(8-16a-5-7) (8-17a-2-4)
gūwa 「別の；別の人」	꺄	(8-11a-4-6)
hafan 「官吏」	하판	(8-19a-6-4)
hafasa 「諸官」	하파사	(8-9b-1-3) (8-11b-3-3)
hafasai 「諸官の」	하파새	(8-19a-2-6)
haha 「男」	하하	(8-16a-5-5) ¹⁵
hahi 「緊急な；性急な」	하히	(8-6b-1-2)
hairaka 「惜しむべき」 ¹⁶	해라카	(8-1b-2-1)

¹⁵ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

¹⁶ 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』ではそれぞれ hairaka と hairakan と綴られている。『大清全書』における見出し語 ai hairaka 「何足惜。」および『増訂清文鑑』における見出し語 hairakan 「很可惜」を参照されたい。また、岸田 (1997: 230) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも hairakan である。なお、王海波 (2026d: 54) は、岸田 (1997: 86, 225, 230)

hairambi 「惜しむ ; 慈しむ」	---	---
hairandarakū ¹⁷	해란다라쿠	(8-11a-1-3)
hajilambi 「親しくする」	---	---
hajilafi	하지라피	(8-14a-1-1)
hala 「姓」	하라	(8-19b-1-2)
halai 「姓の」	하래	(8-1b-3-5)
han 「君主、皇帝」	한	(8-2a-3-3) (8-3b-6-5)
han 「漢語韓」 (han sui 「韓遂」)	한	(8-5a-3-1) (8-5b-2-4)
hanci 「近い」	한치	(8-4b-2-5)
hashū 「左」	하후	(8-1a-5-4) (8-9a-4-1)
hebei (hebei amban 「参贊大臣 議政大臣」)	히베	(8-5a-5-3)
hebušembi 「相談する、協議する」	---	---
hebušeme ¹⁸	허부셔머	(8-5a-5-7)
hefeli 「腹」	히퍼리	(8-12b-2-3)
hendumbi 「言う」	---	---
henduhengge	헌두형거	(8-4a-1-1)
hendume	헌두머	(8-1b-1-1) (8-1b-4-4) (8-1b-6-2) (8-2a-2-4) (8-3a-4-2) (8-3b-1-3) (8-3b-5-2) (8-5a-6-1) (8-6a-1-3) (8-6b-2-4) (8-10a-2-2) (8-11b-4-2) (8-12a-4-6) (8-12b-4-3) (8-12b-6-4) (8-13a-4-7) (8-13b-3-1) (8-15a-1-3) (8-15b-4-7) (8-19a-1-7) (8-20b-3-1) (8-20b-5-2) (8-20b-6-3) (8-21a-4-5) (8-22a-1-3)
hendure	헌두러	(8-3b-3-10)
hetu 「横」	허투	(8-15b-4-1) (8-16a-4-4)
hiya 「漢語夏」 (hiya keo 「夏口」)	하	(8-9b-5-1) (8-13a-4-1)
hiyang 「漢語相」 ¹⁹ (pei guwe hiyang 「沛国相」)	향	(8-19a-6-7)
ho 「漢語河」 (jang ho 「漳河(漳水)」)	호	(8-14a-5-5)

の記述を引用するにあたり、「岸田 (1997: 84, 225, 230)」としているが、この「84」は「86」の誤記である。

¹⁷ Yang (2025: 73) は動詞語幹 hairan- を想定し、これに付く未完了連体接辞 (原文では nonpast participle suffix 「非過去分詞接尾辞」) には -ndArA と -rA の両形が存在すると述べている。

¹⁸ 当該動詞の語幹が清代諸辞書においてどのような形式をとるかについては、岸田 (1997: 86-87) を参照されたい。また、岸田 (1997: 217-218, 231) の記述によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』において、対応する語幹の形式はいずれも hebše- である。

¹⁹ 『對音輯字』(下巻第 31 葉 b 面) では、漢字「襄」と「相」に対応する満洲文字は siyang である。一方、『三譯総解』における「襄陽」の「襄」(2-17a-1-1)および「国相」の「相」(8-19a-6-7)は、いずれも hiyang に対応する形で現れている。しかし、「襄」と「相」はいずれも心母字であるため、本来は hiyang ではなく、siyang に対応するはずである。

ho 「漢語合」 (ho fei 「合肥」)	호	(8-19b-3-2)
huweki 「肥沃な」	휘키	(8-10b-3-6)
hū 「漢語斛」	후	(8-20a-5-3)
hūdun 「速い」	후둔	(8-11b-4-3)
hūlambi 「読む；呼ぶ；雄鶏が 鳴く」	---	---
hūlame	후라머	(8-7a-1-5) (8-17a-6-4)
hūlha 「泥棒」	홀하	(8-15b-6-3)
hūlhambi 「盗む」	---	---
hūlhame 「密かに」	홀하머	(8-4b-4-1)
hūntaha 「杯」 ²⁰	훈타하	(8-15b-3-1)
hūsun 「力」	후순	(8-11a-1-4) (8-13a-6-1) (8-20b-1-4)
hūturi 「福」	후투리	(8-11b-6-1)
i 「の；で」	이	(8-1b-2-6) (8-1b-3-3) (8-1b-5-6) (8-2a-3-4) (8-2a-6-4) (8-3b-3-3) (8-3b-3-5) (8-3b-6-7) (8-4a-1-4) (8-4b-2-9) (8-4b-5-5) (8-4b-5-9) (8-7a-5-1) (8-7b-4-3) (8-7b-6-3) (8-8a-2-9) (8-8a-4-4) (8-8a-5-5) (8-8a-6-5) (8-8b-1-2) (8-9a-3-4) (8-9a-5-1) (8-9b-3-2) (8-9b-3-7) (8-10a-2-5) (8-11b-5-7) (8-13a-2-5) (8-13a- 4-3) (8-13b-1-4) (8-13b-2-4) (8-13b-5-4) (8- 15a-2-4) (8-15b-4-5) (8-16a-5-6) (8-16b-3-1) (8-17a-5-3) (8-17b-1-2) (8-17b-3-4) (8-18a- 5-2) (8-19a-2-3) (8-19a-6-2) (8-20b-6-5) (8- 21b-5-3)
ibembi 「前進する」	---	---
ibefi	이버피	(8-6a-1-2) (8-19a-1-6)
ice 「新しい」	이쳐	(8-14a-6-3)
ici 「右；方向」	이치	(8-1a-5-5) (8-9a-4-2)
ilan 「三」	이란	(8-1b-5-2) (8-4b-5-7) (8-4b-5-8) (8-6a-4-2) (8-6b-6-4) (8-15b-2-6) (8-18a-6-4) (8-21a-2- 2) (8-22a-4-1)
ilgambi 「弁別する」	---	---
ilgarakū	일가라쿠	(8-2b-4-7)
ilibumbi 「立たせる；立てる； 止める」	---	---
ilibufi	이리부피	(8-9a-6-5) (8-19b-5-5)
ilibuhabi	이리부하비	(8-20b-2-3)
ilimbi 「立つ；起きる；止ま る；休む」	---	---
ilifi	이리피	(8-11b-3-5) (8-15b-1-6)

²⁰ 王海波 (2026b: 56) の脚注 27 を参照されたい。

iliha	이리하	(8-10a-2-7) (8-13a-1-5)
inenggi 「日」	이녕기	(8-4b-4-5) (8-8a-6-6) (8-9a-1-3) (8-21b-2-5)
ing 「漢語嘗」	잉	(8-4b-3-1) (8-4b-5-1) (8-7b-4-4) (8-7b-5-1)
ing 「漢語穎」 (yuwan ing 「元穎」)	잉	(8-19b-2-4)
ini 「彼の；彼女の」	이니	(8-4b-2-4) (8-7b-5-4) (8-12b-2-2) (8-14a-1-2) (8-21b-5-7)
injecembi 「一緒に笑う」	---	---
injecefi	인저쳐피	(8-4a-5-2) (8-12b-6-3)
injembi 「笑う」	---	---
injeme	인저머	(8-3a-4-1) (8-3b-4-5) (8-14b-3-7) (8-15a-5-3)
inu 「そうだ；是；も」	이누	(8-7a-6-4)
ioi 「漢語瑜」 (jeo ioi 「周瑜」)	위	(8-4a-6-8) (8-12a-5-2) (8-14a-4-4)
ioi 「漢語攸」 ²¹ (siyun ioi 「荀攸」)	위	(8-12b-4-2)
irgen 「民」	일건	(8-1b-3-6) (8-19b-4-4)
isabumbi 「集める；髪を編ませる」	---	---
isabufi	이사부피	(8-5a-5-6)
isabume	이사부머	(8-20a-3-6)
isimbi 「足りる；至る、及ぶ、届く」	---	---
isire	이시러	(8-9a-6-2)
isitala	이시타라	(8-16a-3-8)
isinjimbi 「到来する」	---	---
isinjiha	이신지하	(8-2b-4-2)
jabšan 「僥倖」	잡산	(8-12a-6-3)
jabumbi 「答える」	---	---
jabume	자부머	(8-1a-2-6) (8-15a-3-1)
jafambi 「取る；掴む；捕らえる、逮捕する；氷が張り詰める；交わりを結ぶ」	---	---
jafafi	자파피	(8-15b-4-2) (8-15b-5-4)
jafaha	자파하	(8-9a-5-6) (8-16a-1-1)
jai 「第二；再び；更に」	재	(8-4b-4-4) (8-11a-4-5) (8-21b-2-4)
jailambi 「避ける」	---	---
jailame	재라머	(8-3a-3-1)

²¹『對音輯字』(下巻第 17 葉 a 面)では、漢字「攸」に対応する満洲文字は io である。一方、『三譯総解』(8-12b-4-2)において「荀攸」の「攸」の満洲文字表記・ハングル表記は、siyun ioi に対応する形で現れている。なお、岸田(1997:237)によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所「荀攸」における満洲文字の語形はそれぞれ siyun io と siyūn io である。

jaka 「物；隙間；所；～たばかり」	자카	(8-20a-6-4)
jakade 「～の所に/で；～ので」	자카더	(8-3b-3-6) (8-3b-4-1) (8-7b-1-6) (8-14a-2-4) (8-21b-1-2) (8-21b-6-6)
jakarambi 「裂ける」	---	---
jakarame 「～に沿って」	자카라머	(8-7b-4-1)
jakūnju 「八十」	자쿤쥬	(8-1b-2-7) (8-1b-5-1)
jalín 「為」	자린	(8-2a-6-5) (8-6a-3-2) (8-10a-3-4)
jalu 「満ちた」	자루	(8-15b-3-2)
jang 「漢語漳 (jang ho 「漳河(漳水)」)	장	(8-14a-5-4)
jangkū 「大刀」	장쿠	(8-9a-5-5)
jeku 「穀物；糧食」	저쿠	(8-20a-3-4)
jembí 「食べる」	점비	(8-17b-1-5)
jecibe	저치버	(8-18a-3-4)
jenduken 「いくらかひそひそと」	전두컨	(8-4b-3-3)
jeo 「漢語州 (si liyang jeo 「西涼州」) (yang jeo 「揚州」)	조	(8-1b-3-2) (8-5a-2-5) (8-19a-6-1) (8-19b-3-7)
jeo 「漢語周 (jeo gung 「周公」) (jeo ioi 「周瑜」)	조	(8-18b-3-1) (8-4a-6-7) (8-12a-5-1) (8-14a-4-3)
jergi 「階級；類い；回；凡庸な」	절기	(8-9b-1-6) (8-14a-3-5) (8-18a-6-5) (8-21a-2-3) (8-22a-4-4)
ji 「漢語直」 ²² (yuwan ji 「元直」)	지	(8-3a-4-4) (8-6b-3-1)
jilgan 「声；音」	질간	(8-14b-6-2)
jili 「怒り」	지리	(8-21a-4-3)
jimbi 「来る」	짐비	(8-5a-3-8)
jiderakū	지더라쿠	(8-2a-1-8) (8-8b-2-5)
jidere	지더러	(8-12b-1-2) (8-17b-6-2)
jihe	지허	(8-4b-1-2) (8-5b-1-5)
jiramilambi 「厚遇する」	---	---
jiramilame	지라미라머	(8-22a-5-1)
jiyan 「漢語建 (jiyan nan 「建安」)	잔	(8-8a-5-3)

²² 『對音輯字』(上卷第19～20葉)では、漢字「直」(第20葉a面)に対応する満洲文字はjy(第19葉b面)である。一方、『三譯総解』において「元直」を表す語は、yuwan jiに対応する形で現れている。岸田(1997: 231)によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はそれぞれyuwan jiとyuwan jyである。

jiyangjiyūn 「漢語將軍」 ²³	장권	(8-8b-5-5)
jobolon 「憂い；災難；喪」	조보론	(8-2b-5-1) (8-12b-2-5)
jobombi 「苦勞する；憂える」	---	---
jobofi	조보피	(8-16b-6-6)
joborakū	조보라쿠	(8-6b-3-5)
joboro	조보로	(8-11a-3-1) (8-17a-2-3)
joborongge	조보롱거	(8-5b-2-3)
jongdon 「漢語粧緞」 ²⁴	중돈	(8-9a-4-6)
jorimbi 「指差す；指示する」	---	---
joriha	조리하	(8-3a-2-3)
jorime	조리머	(8-12a-4-5) (8-13a-4-6)
jugūn 「道」	쥬군	(8-2b-6-4)
jug'oliyang 「漢語諸葛亮」	쥬고량	(8-13a-5-2)
jui 「子」	쥬	(8-14a-1-5) (8-21b-5-4)
julergi 「南；前」	쥬릴기	(8-1b-2-4) ²⁵ (8-2b-3-4) (8-3a-6-1) (8-5b-1-2) (8-9b-5-3) (8-10b-2-5) (8-10b-3-5) (8-11a-4-1) (8-12a-4-2) (8-13b-4-4) (8-14b-1-3)
julesi 「南に；前に」	쥬리시	(8-14b-5-6) (8-18a-5-8) (8-21a-1-2)
jurgan 「行；筋；義；部院(中央官庁)」	줄간	(8-10a-2-4)
juse 「子供達；子供」 ²⁶	쥬서	(8-14a-3-2)
juwan 「十」	쥬완	(8-8a-5-6)

²³ 当該語は『増訂清文鑑』では jiyanggiyūn と綴られている。『大清全書』には jiyanggiyūn と jiyangjiyūn の両綴りが収録されている。なお、『大清全書』には ilhi jiyangciyūn 「副將軍。」という語も収録されており、jiyangciyūn の語形が見られるが、誤記である可能性が高い。

²⁴ jongdon には juwangduwan の異形もあり、いずれも漢語「粧緞」に由来する。また、dardan も「粧緞」を意味する。『満露辞典』(Захаров 1875) の見出し語 дардань (dardan, 796 頁右側第 15-20 行)、чжондонь (jongdon, 993 頁左側第 17-19 行)、чжувандувань (juwangduwan, 1016 頁左側第 5-7 行) を参照された。dardan の『大清全書』および『増訂清文鑑』における漢訳は、それぞれ「草紙。草片金。」と「粧緞」である。

一方、『満露辞典』(Захаров 1875) の見出し語 джоньдонь (jondon, 992 頁左側第 24-28 行) の説明文には、「言及、回想、記憶、思念、過去の想起、仏教における思惟」という意味(すなわち jondo-「過去の事をよく言い出す」に -n が付加された派生語の意味)に加え、漢語「粧緞」の意味も記されている。しかし、『満独辞典』(Hauer 2007: 286, 295) や『新滿漢大詞典』(胡增益 2020: 1384, 1407) などの記述では、見出し語 jongdon および見出し語 juwangduwan には「粧緞」の語義が付されている一方で、見出し語 jondon には「粧緞」の意味への言及が見られない。すなわち、次表の網掛け部分に関しては、『満露辞典』の記述は『満独辞典』および『新滿漢大詞典』の記述と一致しない。

表 3：諸辞書の見出し語 jondon, jongdon, juwangduwan における「粧緞」語義の記載状況

	jondon	jongdon	juwangduwan
『満露辞典』	「粧緞」の意に言及	「粧緞」の意に言及	「粧緞」の意に言及
『満独辞典』	「粧緞」の意に未言及	「粧緞」の意に言及	「粧緞」の意に言及
『新滿漢大詞典』	「粧緞」の意に未言及	「粧緞」の意に言及	「粧緞」の意に言及

²⁵ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記「쥬릴기」のうち、「기」の印刷が不鮮明である。

²⁶ 早田輝洋 (1988: 16) によれば、『満文金瓶梅』における juse は、しばしば一人の「子供」を指す。したがって、本稿では「子供達」という訳に加えて、「子供」という訳も併記している。なお、筆者が調査した満洲語三家子方言においても、juse が一人の「子供」を指す用法が確認されている。

juwe 「二」	쥬위	(8-4a-4-4) (8-8a-2-4) (8-8a-5-7) ²⁷ (8-13a-1-2) (8-14a-1-3) (8-14b-2-1) (8-15a-2-2)
kadalambi 「管轄する」	---	---
kadalara	카다라라	(8-6b-5-3)
kai 「指定や断定の終助詞」	캐	(8-1a-3-4) (8-1b-4-1) (8-5b-3-1) (8-10b-2-6) (8-11a-4-9) (8-12b-3-4) (8-13b-1-9) (8-14b-3-4) (8-15a-4-7) (8-16a-5-8) (8-19a-3-5) (8-21a-3-4)
kamni 「山の隘口」	감니	(8-6a-5-8)
karulambi 「報いる」	---	---
karulahakū	카루라하쿠	(8-6a-3-1)
karulara	카루라라	(8-2a-3-9)
katunjambi 「耐える」	---	---
katunjecibe ²⁸	카툰저치버	(8-17a-2-1)
kemuni 「しよっちゅう ; まだ」	커무니	(8-17a-5-7) ²⁹
keo 「漢語口」 (hiya keo 「夏口」)	코	(8-9b-5-2) (8-13a-4-2)
kesi 「恩」	커시	(8-2a-3-6)
kicembi 「努力する」	---	---
kice	키쳐	(8-11b-2-6)
korsombi 「悔恨する ; 恨む」	콜솜비	(8-6a-3-4)
kumun 「音楽」	쿠문	(8-8b-4-2)
labdo 「多い」 ³⁰	랍도	(8-3a-5-1)

²⁷ 『三譯総解』(8-8a)の juwan juwe ci aniya に対応する『三国志通俗演義』・『滿文三国志』・『滿漢合璧三国志』の当該箇所には、「建安十三年」と「建安十二年」の違いが見られる。次表のとおりにまとめることができる。次表は岸田 (1997: 233) を参考にした。

表 4 : 『三譯総解』(8-8a)における juwan juwe ci aniya および『三国志通俗演義』・『滿文三国志』・『滿漢合璧三国志』における対応語

「十三年」と記された版本	「十二年」と記された版本
漢文『三国志通俗演義』嘉靖本 漢語：十三年	漢文『三国志通俗演義』李卓吾本 漢語：十二年
『滿文三国志』 滿洲語：juwan ilaci aniya	『三譯総解』 滿洲語：juwan juwe ci aniya (관 쥬어 치 아나)
『滿漢合璧三国志』 滿洲語：juwan ilaci aniya 漢語：十三年	朝鮮語訳：열두히

²⁸ 当該語の語幹は、『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても katunja- と綴られている。一方、『三譯総解』の当該箇所では、滿洲文字表記・ハングル表記のいずれも、katunjecibe に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 240) が指摘しているように、『滿文三国志』および『滿漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも katunjacibe である。

²⁹ 原書の当該箇所における滿洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

³⁰ 当該語は、『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても labdu と綴られている。しかし、『三譯総解』の当該箇所では、滿洲文字表記・ハングル表記のいずれも、labdo に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 231) によれば、『滿文三国志』および『滿漢合璧三国志』では、対応箇所における語形は labdu である。성백인 (1984: 27) によれば、『三譯総解』における towa 「火」、labdo、gelgun akū、

lashalambi「断つ;決断する」	---	---
lashalaci	랏하라치	(8-17b-6-4)
lin「漢語林」 (u lin「烏林」)	린	(8-9b-5-8)
lio「漢語劉」 (lio fu「劉馥」) (lio han ecike「劉皇叔」 ³¹) (lio han i ecikei「劉皇叔の」) (lio si「劉熙」)	료	(8-19b-1-3) (8-20b-2-4) (8-20b-6-1) (8-21b-1-3) (8-21b-3-3) (8-21b-5-1) (8-3b-6-4) (8-2a-3-2) (8-21b-5-5)
liobei「漢語劉備」	료배	(8-13a-5-1)
lioi「漢語呂」 (lioi bu「呂布」)	료	(8-15b-6-6)
liyang「漢語涼」 (si liyang jeo「西涼州」)	량	(8-5a-2-4)
liyoo「漢語遼」 (liyoo dung「遼東」)	료	(8-16a-3-5)
loo「漢語老」 (coo da loo「喬大老」)	료	(8-13b-6-4)
lu「漢語魯」 (lu su「魯肅」)	루	(8-12a-5-3)
macoo「漢語馬超」	마초	(8-5a-3-3) (8-5b-2-6)
mahala「帽子」	마하라	(8-15b-6-2)
majige「少し」	마지거	(8-1a-4-4) (8-5a-1-1) (8-6a-2-3) (8-7b-1-8)
maksimbi「踊る」	---	---
maksirengge	막시렁거	(8-11b-5-2)
mangga「難しい;硬い;強い; 高価な」	망가	(8-3a-6-7) (8-17a-3-1)
manggi「～た後」	망기	(8-7a-3-4) (8-11a-4-4) (8-12a-2-7) (8-14b-1-6)
mederi「海」	머더리	(8-10a-5-3)
mekele「徒らに」	머커리	(8-18a-2-2)
mergese「賢者たち、智者たち」	멀거서	(8-17b-4-2)
mimbe「私を」	뎨뎨	(8-6a-1-5)
mimimbi「口を閉じる」	---	---
mimifi	미미피	(8-3a-2-6)
minde「私に」	민더	(8-13b-6-5) (8-14a-2-1)

targū は主として順治初年以前の文献に見られるものである。김주원 (1990: 16) は『三譯総解』(3-23a-6-2)における labdo の語形について言及している。

³¹ 『三譯総解』における「劉皇叔」の「皇叔」は、(8-2a-3-3/4/5) han i ecikei「皇叔の」と、(8-3b-6-5/6) han ecike「皇叔」に出現しており、han の後における属格標識の有無が異なる。岸田 (1997: 231) によれば、『三譯総解』(8-3b-6-5/6)に対応する『滿文三国志』および『滿漢合璧三国志』の当該箇所における語形はいずれも han i ecike であり、属格標識がある。

mingga 「千」 ³²	밍가	(8-6a-4-3) (8-6b-6-5) (8-8a-3-2) (8-20a-4-3)
mini 「私の」	미니	(8-2b-2-2) (8-2b-6-2) (8-3a-1-5) (8-3b-5-3) (8-4a-3-4) (8-5b-2-1) (8-5b-5-2) (8-13a-2-2) (8-13a-6-4) (8-14a-5-3) (8-14b-3-1) (8-15b-5-1) (8-21a-5-4)
moo 「樹木；木材；棒」	모	(8-15a-4-3) (8-18a-6-2) (8-21a-1-4)
morin 「馬；午」	모린	(8-1b-5-5) (8-7b-3-2)
moringga 「乗馬した(人)」	모링가	(8-6b-6-2)
mujilen 「心」	무지런	(8-1a-4-2) (8-7b-1-7) (8-11b-2-3) (8-13a-2-3) (8-18a-3-5) (8-18b-4-7)
mukdembī 「興る；高く昇る」	---	---
mukdefi	목더피	(8-9a-1-1)
muke 「水」	무커	(8-18b-2-5)
mukei 「水の」	무케	(8-7b-4-8) (8-8b-2-3)
mukiyebumbi 「滅ぼす；消す」	---	---
mukiyebuhe	무켜부허	(8-16a-1-5)
murambi 「虎/鹿/駱駝/驢馬などがほえる；鹿狩りをする」	---	---
murame	무라머	(8-17a-6-3)
muse 「私たち(包括的)」	무셔	(8-12a-6-5) (8-12b-3-1)
mutembi 「できる」	---	---
muterakū	무터라쿠	(8-11a-2-3)
nakambi 「やめる」	나캄비	(8-17b-5-1)
nakafi	나카피	(8-21b-2-3)
nakarakū	나카라쿠	(8-14b-4-1) (8-15a-5-4) (8-21b-4-1)
nan 「漢語南」 (nan bing san 「南屏山」)	난	(8-9b-2-3)
nan 「漢語安」 ³³ (jiyan nan 「建安」)	난	(8-8a-5-4)
nasambi 「嘆息する」	---	---
nasame	나사머	(8-21b-3-8)
necin 「平らな」	너친	(8-10a-6-7)
nenembi 「先行する」	---	---
neneme 「先に」	너너머	(8-7b-3-4)
ni 「疑問・感動の終助詞」	니	(8-4a-4-2)
ni 「の；で」	니	(8-1b-2-3) (8-2a-1-5) (8-3b-1-6) (8-4b-5-2) (8-7b-3-6) (8-10b-2-4) (8-10b-3-4) (8-11a-3-

³² 当該語は『増訂清文鑑』では minggan と綴られている。一方、『大清全書』では mingga と綴られている。なお、岸田 (1997: 231, 232, 233, 242) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも minggan である。

³³ 『三譯総解』の当該箇所では、「建安」の満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、jiyan nan に対応する形で表れている。一方、岸田 (1997: 233) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも jiyān an である。nan の形式については、岸田 (1997: 76-79) と王海波 (2026d: 61) の脚注 34 を参照されたい。

		5) (8-11a-5-3) (8-12a-4-1) (8-13b-4-3) (8-14b-1-2) (8-19a-6-8) (8-22a-4-3)
nimaha 「魚」	니마하	(8-20a-5-4)
nirugan 「絵」	니루간	(8-9b-3-6)
niyalma 「人」	날마	(8-1a-6-3) (8-1b-5-4) ³⁴ (8-4b-2-6) (8-4b-5-6) (8-5a-2-1) (8-9a-6-3) (8-12b-1-3) (8-13a-2-4) (8-13a-2-7) (8-15a-2-5) (8-16b-4-6) (8-19a-1-3) (8-19b-1-1)
nofi 「人の助数詞」	노피	(8-4a-4-5)
nu 「漢語弩」	누	(8-8a-3-4)
nure 「酒(粟や黍などを原料として醸造した酒)」	누리	(8-12a-2-2) (8-15a-6-3) (8-15b-2-1) (8-16b-4-1) (8-17a-4-4)
obumbi 「する」	---	---
obuci	오부치	(8-10b-5-1)
obufi	오부피	(8-7a-2-3) (8-10a-6-3)
obuki	오부키	(8-10b-1-1)
olhombi 「乾く ; 恐れる」	---	---
olhorakūci	올호라쿠치	(8-5b-4-5)
olhon 「乾いた」	올혼	(8-7b-4-2)
ombi 「なる」	옴비	(8-5b-6-2) (8-10b-5-2)
oci	오치	(8-2b-4-8)
ofi	오피	(8-7b-2-2) (8-8b-2-2) (8-12a-6-2)
oho	오호	(8-1a-4-6) (8-12a-2-6) (8-13b-3-7) (8-18a-2-3)
ohode	오호더	(8-12b-2-6)
ojorakū	오조라쿠	(8-5b-4-6) (8-17b-6-5) (8-7a-3-2)
omicambi 「一緒に飲む」	---	---
omicame	오미차머	(8-12a-2-3)
omimbi 「飲む」	---	---
omifi	오미피	(8-15b-3-3)
omšon (omšon biya 「十一月」)	옴손	(8-8a-6-2)
onco 「横に広い」	온초	(8-10a-1-1)
onggombi 「忘れる」	---	---
onggorakū	옹고라쿠	(8-11b-1-6)
onggoro	옹고로	(8-2a-4-1) (8-17a-2-6)
orho 「草」	올호	(8-17b-1-3) (8-20a-4-1)
pangtung 「漢語龐統」	팡통	(8-1a-2-1) (8-1a-3-5) (8-1a-6-5) (8-1b-6-1) (8-3a-3-3) (8-3b-2-4) (8-4a-5-4) (8-7a-5-4)
pei 「漢語沛」 (pei guwe hiyang 「沛国相」)	페	(8-19a-6-5)
sa 「～たち」	사	(8-8b-5-6)

³⁴ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記「날마」のうち、「날」の印刷が不鮮明である。

saca 「兜」	사차	(8-20a-2-2)
sahambi 「積む」	---	---
sahafi	사하피	(8-20a-1-5)
sai 「漢語塞」 (sai be 「塞北」)	새	(8-16a-2-3)
sain 「良い」	센	(8-2b-1-3) (8-17b-2-1)
sambi 「知る」	---	---
sara	사라	(8-3a-5-2)
sarkū	살쿠	(8-12a-6-1)
samsimbi 「分散する」	---	---
samsiha	삼시하	(8-19b-4-3)
san 「漢語山」 ³⁵ (fan san 「樊山」) (tai san 「泰山」) (nan bing san 「南屏山」)	산	(8-9b-5-5) (8-13b-1-2) (8-9b-2-5)
san 「漢語散」 (san guwan 「散關」)	산	(8-6a-5-3) (8-6b-4-1) ³⁶
sargan 「妻」(sargan jui 「女の 子」)	살간	(8-14a-1-4) (8-14a-3-1)
sarilambi 「酒宴を開く」	---	---
sarilara	사리라라	(8-8b-5-8)
sarin 「酒宴」	사린	(8-8b-3-6) (8-21b-2-2)
sartabumbi 「遅延させる；憂 を解く」	---	---
sartaburengge	살타부렁거	(8-17a-4-1)
se 「歳；年齢」	서	(8-13b-3-6) (8-16b-5-2)
sebjen 「楽しみ」	섭전	(8-11a-6-3)
seibeni 「昔」	세버니	(8-3b-6-3) (8-13b-6-1)
selgiyembi 「伝令する、布令 する」	---	---
selgiyehe	설겨허	(8-4b-4-3)
sembi 「言う」	---	---
seci	스치	(8-10b-1-2)
sefi	스피	(8-4a-4-3) (8-14b-3-5) (8-16b-2-2)

³⁵ 『對音輯字』(上巻第 38 葉 a 面) では、漢字「山」に対応する満洲文字は san である。一方、『三譯総解』において「泰山」を表す語は、tai san に対応する形で現れている。

³⁶ 『三譯総解』(8-6a-5-3/4), (8-6b-4-1/2)に見られる san guwan は、原文の朝鮮語訳ではいずれも「散關」とされている。一方、『満漢合璧三国志』の対応箇所では、それぞれ「散關」と「三關」となっている。

表 5: 『三譯総解』(8-6a/6b)における「散關」および『満漢合璧三国志』における対応語

『三譯総解』(8-6a-5-3/4) san guwan 「散關」	『満漢合璧三国志』(10-46b-1-2/3) san guwan 「散關」
『三譯総解』(8-6b-4-1/2) san guwan 「散關」	『満漢合璧三国志』(10-46b-3-4/5) san guwan 「三關」

文脈に照らすと、これら二箇所に現れる san guwan はいずれも同一の指示対象を指すと考えられる。したがって、『満漢合璧三国志』の当該箇所に見られる「三關」の「三」は、誤記であると考えられる。

sehe	스허	(8-4a-2-3) (8-7a-3-3)
sehengge	스헝거	(8-21a-2-8)
seme	스머	(8-7b-6-6) (8-11a-2-4) (8-15a-4-2) (8-15b-1-2) (8-21a-6-1) (8-21b-6-4) (8-22a-3-7) (8-22a-6-7)
sere	스러	(8-5a-3-9) (8-14a-2-3)
seng 「漢語生」 (siyan seng 「先生」)	승	(8-3b-1-5) (8-20b-3-3)
seri 「稀な、疎らな」	서리	(8-18a-5-6) (8-20b-6-9)
si 「あなた」	시	(8-1a-2-4) (8-1b-1-2) (8-1b-3-9) (8-6b-5-1) (8-21a-4-6)
si 「漢語西」 (si liyang jeo 「西涼州」)	시	(8-5a-2-3)
si 「漢語熙」 (lio si 「劉熙」)	시	(8-21b-5-6)
sikse 「昨日」	식서	(8-22a-2-1)
silenggi 「露；涎」	시렁기	(8-16b-6-4)
sinahalambi 「喪に服する」	---	---
sinahalaci ³⁷	시나하라치	(8-22a-5-2)
sindambi 「置く；放つ」	---	---
sindaki	신다키	(8-21b-6-3)
sini 「あなたの」	시니	(8-2b-1-2) (8-22a-2-4)
sioi 「漢語徐」 (sioi šu 「徐庶」)	쉬	(8-1a-3-2) (8-1b-4-2) (8-2a-2-2) (8-3b-1-1) (8-3b-3-1) (8-3b-4-2) (8-4a-5-5) (8-4b-1-4) (8-5b-6-5) (8-7a-4-1) (8-7a-5-5) (8-7b-1-1)
sioi 「漢語許」 (sioi du 「許都」)	쉬	(8-5a-3-5)
sirambi 「継ぐ」	---	---
siraha ³⁸	시라하	(8-9a-2-6)
siyan 「漢語先」 (siyan fung 「先鋒」) (siyan seng 「先生」)	산	(8-7a-2-1) (8-3b-1-4) (8-20b-3-2)
siyun 「漢語荀」 ³⁹	순	

³⁷ 当該語の語幹は、『増訂清文鑑』では sinagala- と綴られている。見出し語 sinagalambi 「丁憂」を参照されたい。一方、『大清全書』では sinahala- と綴られている。見出し語 sinahalaha 「守制。成服。丁憂。」を参照されたい。『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、sinahalaci に対応する形で現れている。

³⁸ 岸田 (1997: 234) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも saraha である。

³⁹ 『對音輯字』(下巻第 31 葉 b 面) では、漢字「荀」に対応する満洲文字は io である。一方、『三譯総解』において「荀攸」を表す語は、siyun ioi に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 237) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はそれぞれ siyun io と siyūn io である。

(siyun ioi 「荀攸」)		(8-12b-4-1) ⁴⁰
soktombi 「酔う」	---	---
soktofi	속토피	(8-12a-3-2) (8-22a-2-3)
soktohongge	속토흥거	(8-21b-3-1)
songgombi 「泣く」	---	---
songgome	송고머	(8-22a-1-2)
sorombi 「忌む」	소롬비	(8-20b-5-4)
sorondoro ⁴¹	소론도로	(8-19a-4-5) (8-20b-3-7) (8-21a-3-2)
su 「漢語肅」 (lu su 「魯肅」)	수	(8-12a-5-4)
subumbi 「冤罪を解く ; 脱がせる ; 酔いが覚める ; 墮胎する」	---	---
subufi	수부피	(8-21b-3-2)
sui 「漢語遂」 (han sui 「韓遂」)	쉬	(8-5a-3-2) (8-5b-2-5)
suje 「緞子」	수저	(8-9a-2-5)
sulaka 「やや疎な ; 心が和んでいる ; 少しく病状の良い」 ⁴²	수라카	(8-1a-4-5) (8-7b-2-1)
sun 「漢語孫」 (sun ts'e 「孫策」)	순	(8-14a-4-1)
sunja 「五」	순자	(8-4b-5-10)
sunjai 「sunja + 属格標識」	순재	(8-4b-6-1)
susai 「五十」	수새	(8-13b-3-4)
suwayan 「黄色い ; 戊」	쉬얀 ⁴³	(8-15b-6-1)
suwe 「あなたたち」	쉬	(8-16b-1-5)
suweni 「あなたたちの」	쉬니	(8-13a-5-3)
sy 「漢語瑟」 ⁴⁴	스	(8-17b-2-5)
šan 「耳」	산	(8-3b-3-4)

⁴⁰ 岸田 (1997: 237) によれば、『三譯総解』(8-12b-4-1)における満洲文字表記は siyun となっている。『三訳総解』には複数の版本が存在する。本書で取り上げるのは駒澤大学本であり、筆者の確認によれば、駒澤大学本の当該箇所は満洲文字表記は siyun であり、siyon ではない。ただし、筆者は延禧大学東方学研究所が影印した『八歳兒 小兒論 三譯總解 同文類解』の版本も確認しているが、この箇所は確かに siyon となっている。両版本の違いに関しては王海波 (2026d: 63) を参照されたい。

⁴¹ Yang (2025: 73) は動詞語幹 soron- を想定し、これに付く未完了連体接辞 (原文では nonpast participle suffix 「非過去分詞接尾辞」) には -ndArA と -rA の両形が存在すると述べている。

⁴² 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』の見出し語では、それぞれ sulaka と sulakan と綴られている。『大清全書』における見出し語 sulaka 「安閑。寛放心之寛。」および『増訂清文鑑』における見出し語 sulakan 「畧鬆閑」、sulakan oho 「鬆快了」を参照されたい。なお、岸田 (1997: 230, 232) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所の語形はいずれも sulakan である。

⁴³ 原書の当該箇所では、「쉬얀」ではなく「쉬얀」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。対応する満洲文字表記は正しく suwayan と記されている。

⁴⁴ 『對音輯字』(上巻) では、漢字「瑟」(第7葉 a 面) に対応する満洲文字は še (第6葉 b 面) である。一方、『三譯総解』において当該部分は、sy に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 241) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はそれぞれ sy と se である。

šanggiyan 「白い；庚」	상간	(8-9a-2-4)
šenggi 「額」 ⁴⁵	성기	(8-4b-6-3)
šoο 「漢語紹」 (yuwan šoo 「袁紹」)	쑤	(8-16a-1-7)
šu 「漢語庶」 (sioi šu 「徐庶」)	슈	(8-1a-3-3) (8-1b-4-3) (8-2a-2-3) (8-3b-1-2) (8-3b-3-2) (8-3b-4-3) (8-4a-6-1) (8-4b-2-1) (8-6a-1-1) (8-7a-4-2) (8-7a-5-6) (8-7b-1-2)
šu 「漢語術」 (yuwan šu 「袁術」)	슈	(8-16a-1-3)
šumhun 「指」 ⁴⁶	쑤훈	(8-12a-4-4) (8-13a-4-5)
šumin 「深い」	슈민	(8-3a-4-6) (8-16a-3-3) (8-18b-2-6) (8-20a-1-1)
šurdembi 「回る」	---	---
šurdeci	쑤더치	(8-18b-1-1) (8-21a-2-4)
tacibumbi 「教える」	---	---
tacibure	타치부러	(8-3b-2-1)
tacihyan 「教え」	타치한	(8-19b-6-4)
tacikū 「学校」	타치쿠	(8-19b-5-3)
tai 「漢語台」 (tung coo tai 「銅雀台」)	태	(8-14a-6-7)
tai 「漢語泰」 (tai san 「泰山」)	태	(8-13b-1-1)
takambi 「見知る」	---	---
takafi	타카피	(8-1a-4-1)
takūrambi 「遣わす」	---	---
takūrafi	타쿠라피	(8-4b-3-4)
tanggū 「百」	탕구	(8-1b-3-4) (8-9a-6-1) (8-10b-6-2) (8-20a-5-2)
tašan 「嘘、偽り」	타산	(8-4a-3-6)
tašarambi 「誤る」	---	---
tašarame	타샤라머	(8-22a-3-3)
te 「今」	터	(8-2a-6-1) (8-3b-5-5) (8-5b-3-2) (8-6a-4-1) (8-6b-5-4) (8-10b-5-3) (8-13b-3-3)
tebumbi 「座らせる；住ませる；職に就かせる；駐屯させる；盛る；植える；納棺する；酒を作る」	---	---
tebufi	터부피	(8-11b-2-5)

⁴⁵ 当該語は『大清全書』と『増訂清文鑑』のいずれにおいても šenggin と綴られている。

⁴⁶ 当該語は、『増訂清文鑑』では simhun と綴られている。見出し語 simhun 「指」を参照されたい。一方、『大清全書』には simhun と šumhun の両綴りが収録されている。見出し語 simhun 「指頭。」および šumhun 「指頭。」などを参照されたい。

tebuhe	터부허	(8-14b-2-5)
tebume	터부머	(8-20a-5-6)
tecebumbi 「一緒に座らせる」	---	---
tecebufi	터쳐부피	(8-9b-2-1)
tecembi 「一緒に座る」	---	---
tecehe	터쳐허	(8-12b-6-6)
teisulebumbi 「相応させる」	---	---
teisulebuhe	테수러부허	(8-16a-6-2)
tembi 「座る；住む；職に就く；駐屯する；沈殿する；水が溜まる」	---	---
tefi	터피	(8-4a-6-6) (8-9a-3-7)
tehe	터허	(8-8a-4-6) (8-19a-1-4)
teni 「やっと」	터니	(8-1a-4-3)
tere 「その；それ；その人；あの；あれ；あの人」	터러	(8-4b-2-2) (8-7b-5-5) (8-8a-4-2) (8-8a-5-1) (8-12b-2-1) (8-15a-6-1) (8-16b-2-4)
tereci 「それ/あれ/彼/彼女より；それから；さて；やがて」	터러치	(8-4b-1-3)
tofohon 「十五」	토포혼	(8-8a-6-4)
tonggo 「糸」	통고	(8-3a-6-2)
ts'ai 「漢語柴」 ⁴⁷ (ts'ai ts'ang 「柴桑」)	채	(8-9b-4-2)
ts'ang 「漢語倉」	창	(8-20a-3-1)

⁴⁷ 『對音輯字』(上卷第 26 葉 b 面) では、漢字「柴」に対応する満洲文字は cai である。一方、『三譯総解』において「柴桑」の「柴」の満洲文字表記・ハングル表記のいずれもは、ts'ai に対応する形で現れている。岸田(1997: 235)によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の対応箇所の語形はいずれも ts'ai である。

ts'ang 「漢語桑」 ⁴⁸ (ts'ai ts'ang 「柴桑」)	창	(8-9b-4-3)
ts'ang 「漢語臧」 ⁴⁹ (ts'ang ba 「臧霸」)	창	(8-7a-1-2) (8-7a-4-6)
ts'e 「漢語策」 (sun ts'e 「孫策」)	처	(8-14a-4-2)
ts'oots'oo 「漢語曹操」	초초	(8-5a-1-3) (8-5a-4-1) (8-6b-2-1) (8-7a-4-3) (8-7a-6-5) (8-7b-2-3) (8-8a-4-1) (8-8b-3-1) (8-9a-3-1) (8-9b-2-2) (8-10a-2-1) (8-12a-1-1) (8-12a-3-1) (8-12b-6-1) (8-15a-1-1) (8-15a-5-1) (8-19a-5-2) (8-20b-1-1) (8-20b-5-1) (8-21a-4-1) (8-22a-1-1)
ts'yts'y 「漢語刺史」 ⁵⁰	츠츠	(8-19a-6-3)
tu 「纛(大旗、軍旗)」	투	(8-8a-1-2)
tucibumbi 「出す」	---	---

⁴⁸『對音輯字』(下卷第3葉b面)では、漢字「桑」に対応する満洲文字は sang である。一方、『三譯総解』全十巻において「桑」の満洲文字表記は3例出現しているが、いずれも ts'ang と綴られている。この3例の出現箇所はそれぞれ(8-9b-4-2), (10-3b-2-4), (10-24b-1-1)である。岸田(1997: 235, 254, 261)によれば、『満文三国志』の対応箇所の語形はそれぞれ ts'ang, ts'ang, dzang であり、『満漢合璧三国志』の対応箇所の語形はいずれも sang である。岸田の記述を次表のとおりにまとめることができる。

表6:『三譯総解』における「柴桑」・「柴桑郡」の満洲文字表記・ハングル表記
および『満文三国志』・『満漢合璧三国志』における対応語

岸田対校表番号	漢字	三譯総解	満文三国志	満漢合璧三国志
667	柴桑	ts'ai ts'ang 「채 창」 (8-9b-4-2/3)	ts'ai ts'ang (10-38b-8)	ts'ai sang (10-47b-6-10/11)
840	柴桑郡	ts'ai ts'ang jiyūn 「채 창 진」 (10-3b-2-4/5/6)	ts'ai ts'ang jiyūn (11-77a-1)	ts'ai sang jiyūn (10-103a-4-9/10/-5-11)
904	柴桑郡	ts'ai ts'ang jiyūn 「채 창 진」 (10-24b-1-1/2/3)	ts'ai dzang jiyūn (11-83b-6)	ts'ai sang jiyūn (11-113a-3-12/-4-1/2)

⁴⁹『對音輯字』(下巻第11葉b面)では、漢字「臧」に対応する満洲文字は dzang である。一方、『三譯総解』全十巻において「臧」の満洲文字表記は2例出現しているが、いずれも ts'ang と綴られている。この3例の出現箇所はそれぞれ(8-7a-1-2), (8-7a-4-6)である。岸田(1997: 232)によれば、『満文三国志』の対応箇所の語形はそれぞれ sang と dzang であり、『満漢合璧三国志』の対応箇所の語形はいずれも dzang である。岸田の記述を次表のとおりにまとめることができる。

表7:『三譯総解』における「臧霸」の満洲文字表記・ハングル表記
および『満文三国志』・『満漢合璧三国志』における対応語

岸田対校表番号	漢字	三譯総解	満文三国志	満漢合璧三国志
643	臧霸	ts'ang ba 「창 바」 (8-7a-1-2/3)	sang ba (10-38a-1)	dzang ba (10-46b-5-1/2)
644	臧霸	ts'ang ba 「창 바」 (8-7a-4-6/7)	dzang ba (10-38a-2)	dzang ba (10-46b-6-7/8)

⁵⁰『對音輯字』(上巻第7葉a面)では、漢字「使」に対応する満洲文字は si である。一方、『三譯総解』において「刺史」は、ts'yts'y に対応する形で現れている。なお、岸田(1997: 241)によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形は、それぞれ sysy と ts'ysy である。

tucibufi	투치부피	(8-7a-1-1)
tucimbi	투침비	(8-19a-5-1) (8-20b-4-3)
tucici	투치치	(8-11a-1-5)
tucifi	투치피	(8-19b-3-5)
tucike	투치커	(8-1b-1-6)
tucire	투치러	(8-3a-1-7)
tukiyembi 「持ち上げる ; 担ぐ ; 挙用する ; 称揚する」	---	---
tukiyefi	투켜피	(8-8a-1-4)
tukiyehē	투켜허	(8-19b-2-1)
tukiyeme	투켜머	(8-11b-4-1)
tumen 「万」	투먼	(8-1b-5-3) (8-10b-6-3)
tung 「漢語銅」 (tung coo tai 「銅雀台」)	툭	(8-14a-6-5)
turgunde 「～の原因/理由で」	툭군더	(8-19a-4-3) (8-20b-3-5)
tusa 「利益」	투사	(8-6a-2-4)
tuwakiyambi 「見張る」	---	---
tuwakiyaki	튀카키	(8-6a-6-3)
tuwakiyara	튀카라	(8-20a-6-2)
tuwambi 「見る」	---	---
tuwaci	투와치	(8-1a-5-3) (8-9b-3-4) (8-9b-6-1) (8-14a-2-6) (8-19a-5-3)
tuwafi	투와피	(8-7b-4-6) (8-7b-5-3)
u 「漢語烏」 (u lin 「烏林」)	우	(8-9b-5-7)
ubade 「ここに/で」	우바더	(8-2b-2-6)
ubai 「この」	우배	(8-1b-4-5)
ubašambi 「翻す ; 耕す ; 背く」	---	---
ubašafi	우바샤피	(8-5a-3-4)
uculembi 「歌う」	---	---
uculeci	우추러치	(8-16b-4-4)
uculehe	우추러허	(8-16b-2-3)
uculeme	우추러머	(8-11b-5-1) (8-18b-6-3)
uculere	우추러러	(8-16b-1-4)
ucun 「歌」	우춘	(8-16b-2-5)
ucuri 「折り、機会」	우추리	(8-19a-2-4)
udu 「幾つ ; いくら～(だとて)」	우두	(8-3b-3-8) (8-5b-4-1) (8-16b-5-1)
ududu 「幾つもの」	우두두	(8-20a-5-1)
uhei 「一緒に」	우헤	(8-11a-5-5)
uheri 「すべて」	우허리	(8-6b-5-2)
ujen 「重い」	우견	(8-13b-1-6)
uju 「頭 ; 第一」	우쥬	(8-4a-2-2) (8-4b-6-2)

ukambi 「逃げる」	---	---
uka (完了) ⁵¹	우카	(8-19b-4-2)
uksin 「鎧」	옥신	(8-20a-2-1)
ulan 「大きな溝、濠；伝え、教え」	우란	(8-20a-1-2)
ume 「否定命令標識」	우머	(8-12b-4-5)
unde 「まだ～していない」	운더	(8-2a-4-2)
undengge 「まだ～していないもの」	운덩거	(8-10b-2-2)
undu 「縦」	운두	(8-16a-4-5)
unenggi 「誠；事実；誠実な；本当の」	우녕기	(8-6b-3-2) (8-16a-5-3)
unggimbi 「遣わす」	---	---
unggihe	웅기허	(8-22b-1-1)
unggime	웅기머	(8-10a-4-6)
unggire	웅기러	(8-7b-1-5)
urgunjembi 「喜ぶ」	---	---
urgunjeme	울군저머	(8-6b-2-3) (8-10a-1-5) (8-12a-1-3)
urgunjere	울군저러	(8-13b-5-5)
urhun 「喜び」 ⁵²	울훈	(8-11a-6-2)
uri 「穀物貯蔵所」	우리	(8-20a-4-2)
urse 「衆人」	울서	(8-13a-1-6)
usiha 「星」	우시하	(8-18a-5-5) (8-20b-6-8)
usin 「田畑」	우신	(8-19b-6-1)
uthai 「すぐに；即ち」	uhn	(8-5a-5-1) (8-6b-6-1) (8-7b-3-1) (8-9b-3-5) (8-21b-2-1) (8-22a-6-8)
uttu 「このように」	운투	(8-3a-4-5)
wajimbi 「終わる」	---	---
wajiha	와지하	(8-18b-6-4)
wajinggala	와징가라	(8-5b-6-4)
waliyambi 「捨てる；吐き出す；展墓する」	---	---
waliyara	와랴라	(8-18b-4-3)
wambi 「殺す」	암비	(8-1b-3-10)
waha	와하	(8-21b-3-6) (8-22a-3-4)
wargi 「西」	알기	(8-9b-4-4)

⁵¹ 該当箇所における uka は、ukaka の誤記である可能性がある。岸田（1997: 242）によれば、『満文三國志』および『満漢合璧三國志』では、対応箇所における語形はいずれも ukaka である。なお、筆者の確認によれば、『三譯総解』には ukaka の語形存在しないわけではない。『三譯総解』における ukaka の出現箇所は(10-21a-3-5), (10-21b-1-3)である。Зарков (1875: 143) によれば、uka- につく完了接辞には -ha と -ka の両形式がある。

⁵² 当該語は『増訂清文鑑』および『大清全書』のいずれにおいても urgun と綴られている。『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、urhun に対応する形で現れている。なお、岸田（1997: 237）によれば、『満文三國志』および『満漢合璧三國志』の対応箇所の語形は、いずれも urgun である。

we 「誰」	위	(8-1a-2-5) (8-5b-5-1) (8-14a-5-1)
wehe 「石」	위허	(8-2b-4-5)
weile 「罪 ; 事」	웨러	(8-2a-6-3) (8-11a-4-7)
weilebumbi 「働かせる」	---	---
weilebume	웨러부머	(8-19b-6-2)
wenjemb 「温める ; 発熱する」	---	---
wenjefi	원저피	(8-15a-6-5)
wesihun 「上に ; 東に ; 高貴な」	위시훈	(8-11a-6-1)
yabumbi 「行く、歩く ; 行う」	---	---
yabuhangge	야부항거	(8-16a-5-2)
yacin 「青黒い」 ⁵³	야친	(8-17a-5-1)
yafaha 「歩行」 ⁵⁴	야파하	(8-6b-6-3)
yalumbi 「騎乗する」	---	---
yalufi	야루피	(8-7b-3-3)
yamji 「晩」	얌지	(8-4b-2-3) (8-8b-5-2)
yamjimbi 「日が暮れる」	---	---
yamjime	얌지머	(8-8b-6-2)
yang 「漢語揚」 ⁵⁵ (yang jeo 「揚州」)	양	(8-19a-5-4) (8-19b-3-6)
yargiyan 「本当の」	얌간	(8-5b-4-2) (8-13b-5-3)
yasai 「目の」	야새	(8-3a-5-4)
yaya 「すべての、諸々の」	야야	(8-20a-6-3)
yendebumbi 「燃え盛らせる ; 興す」	---	---
yendebuhe	연더부허	(8-19b-6-6)
yendembi 「燃え盛る ; 興る」	---	---
yendefi	연더피	(8-21a-5-5)
yerguwei 「蟻の」 ⁵⁶	열궤	(8-13a-5-4)
yuwan 「漢語元」 (yuwan ing 「元類」) (yuwan ji 「元直」)	완	(8-19b-2-3) (8-3a-4-3) (8-6b-2-5)
yuwan 「漢語袁」	완	

⁵³ yacin の意味に関しては、結城 (2000) と早田清冷 (2011) を参照されたい。

⁵⁴ 当該語は、『増訂清文鑑』では yafahan と綴られている。yafahan cooha 「歩兵」などの見出し語を参照されたい。一方、『大清全書』では yafaha と綴られている。yafaha 「歩行。徒行。」や yafaha cooha 「歩兵。」などの見出し語を参照されたい。『三譯総解』の当該箇所において、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも yafaha に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 232) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも yafahan である。

⁵⁵ 『三譯総解』原書における朝鮮語訳では、yangjeo を「揚州」と訳しており、「楊」という漢字を用いている。『満漢合璧三国志』の当該箇所の漢語は「揚州」であり、「揚」という漢字を用いている。

⁵⁶ 『三譯総解』における yerguwei は yerguwe 「蟻」に i 「属格標識」が付加された形式である。yerguwe 「蟻」は、『大清全書』および『増訂清文鑑』では yerhuwe と綴られている。『大清全書』における見出し語 edun ici be tuwame yerhuwe i adali isinjihabi 「望風蟻附。」および『増訂清文鑑』における yerhuwe 「蟻蟻」などの見出し語を参照されたい。なお、岸田 (1997: 238) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所の語形は、それぞれ yerguwei と yerhuwei である。

(yuwan šoo 「袁紹」)		(8-16a-1-6)
(yuwan šu 「袁術」)		(8-16a-1-2)
yuwansuwai 「漢語元帥」 ⁵⁷	완쇄	(8-7b-6-5)

3. 追記

既発表の拙稿に関して、以下の点を補足しておきたい。

[1] 王海波 (2026a: 35) の項目 *tukiyelaha* に関する脚注は、筆者と Sulfa (私信) および Biligt (私信) との『三譯総解』における *tukiyelaha* の用例についての議論に基づく見解である。Sulfa は、*tukiyelaha* における *-la* を微動の標識をとし、Biligt はそれを瞬間性・単回性の標識としている。これに対し筆者は、それは *semelfactive* を示すものではないかと考えている。

王海波 (2026a: 35) を執筆した当初、筆者は先行研究である早田 (1997) の存在に気づいていなかった。今月になって早田 (1997) の存在を知り、入手して拝読した。早田 (1997) は、『満文金瓶梅』中の *tukiyela-* の用例を提示した上で分析し、その意味については、*semelfactive* という用語には言及していないものの、「《ちょっと (ぐっと, さっと) 持ち上げる, 吊り上げる》のようなものかと思われる」と指摘している。早田 (1997) の和訳に見られる「ちょっと」は、主として動作の程度の軽さを表すものである。「ぐっと」は「力を入れて」のニュアンスを表し、「さっと」は瞬間的な動作という側面を強調するものであると考えられる。一方、王海波 (2026a: 35) の用いる *semelfactive* は、語源的には単回性を表すものであるが、瞬間的な動作と結びつく傾向が強い(この点については Smith 1997: 29 を参照)。したがって、両者の見解は必ずしも一致するものではないが、共通する側面が認められる。

[2] 王海波 (2026c: 15) の項目 *ganjimeju* に関する脚注で言及された Norman (2013) は、参考文献欄には掲載されていない。文献の詳細については、本稿の参考文献欄を参照されたい。また、当該脚注における「*-me ji-* は通常、分かち書きされている。」との記述は、「通常、*-meji-* のような形式をとらない」ことを意味するものであり、「*-nji-* の形式をとらない」という意味ではない。

⁵⁷ 康熙期の『清文鑑』における当該語の形式は *yuwanšuwai* である。『對音輯字』(下巻第 32 葉 a 面) では、漢字「帥」に対応する満洲文字は *šuwai* である。『同文類解』(1-37b-9-3)におけるハングル表記の満洲語文語「완쇄」も、*yuwanšuwai* に対応する形で現れている。一方、『三譯総解』において「元帥」を表す語は、*yuwansuwai* に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 233) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』における対応箇所の語形は、それぞれ *yuwansuwai* と *yuwanšuwai* である。

参考文献

<日本語文献>

- 池上二良 (1951) 「満洲語の諺文文献に関する一報告」『東洋學報』33(2): 97-118.
- 池上二良 (1954) 「満洲語の諺文文献に関する一報告 (承前)」『東洋學報』36(4): 57-74.
- 池上二良 (1963) 「ふたたび満洲語の諺文文献について」『朝鮮學報』26: 94-100.
- 今西春秋 (1958) 「漢清文鑑解説」『朝鮮學報』12: 21-58.
- 上原久 (1960) 『満文満洲実録の研究』東京：不昧堂書店.
- 王海波 (2026a) 「『三譯総解 (第三)』ハングル表記満洲語文語索引」『KOTONOHA』279: 1-40.
- 王海波 (2026b) 「『三譯総解 (第四)』ハングル表記満洲語文語索引」『KOTONOHA』279: 41-74.
- 王海波 (2026c) 「『三譯総解 (第五)』ハングル表記満洲語文語索引」『KOTONOHA』280: 1-38.
- 王海波 (2026d) 「『三譯総解 (第六)』ハングル表記満洲語文語索引」『KOTONOHA』280: 39-72.
- 小倉進平 (1914a) 「朝鮮に於ける日漢滿蒙語辭書」『朝鮮及滿洲』83: 40-46.
- 小倉進平 (1914b) 「朝鮮に於ける日・漢・滿・蒙語讀本」『東洋學報』4(2): 244-266.
- 菅野裕臣 (2005) 「朝鮮司訳院の清學書のハングル対音の性格について」『韓国語學年報』1: 1-8.
- 岸田文隆 (1989) 「清學書に現れた満洲語ハングル表記について：特に満洲字 e に対する 2 通りのハングル表記をめぐって」『言語学研究』8: 17-38.
- 岸田文隆 (1997) 『『三譯總解』の満文にあらわれた特殊語形の来源』東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 竹越孝 (2021) 『満漢成語對待校注』神戸：神戸市外国語大学外国学研究所.
- 田村實造・今西春秋・佐藤長 (1966-1968) 『五體清文鑑譯解』京都：京都大學文學部内陸アジア研究所.
- 羽田亨 (1937) 『滿和辭典』京都：京都帝國大學滿蒙古調査會.
- 早田清冷 (2011) 『『満文三國志』満洲語の黒を表す語について—sahaliyan と yacin を中心に—』寺村政男・福盛貴弘 (編) 『語学教育フォーラム (第 24 号)：言語の研究 II—ユーラシア諸言語からの視座—』143-152. 東京：大東文化大学語学教育研究所.
- 早田輝洋 (1988) 「満洲語文語における或る単語の単数と複数について：『満文金瓶梅』の asihan と asihata」『九大言語学研究室報告』9: 1-17.
- 早田輝洋 (1993) 「満洲語文語における「取りに (連れに) 来る」を意味する動詞について：『満文金瓶梅』を資料として」『文學研究』90: 89-130.
- 早田輝洋 (1997) 「満洲語文語の動詞 tukiyela-について」『語学教育フォーラム (第 14 号)』259-266. 東京：大東文化大学語学教育研究所.
- 福田昆之 (2008) 『増訂満洲語文語辞典』横浜：FLL.
- 松村潤 (1998) 「清朝開国説話再考」『二松学舎大学人文論叢』61: 132-115.
- 結城佐織 (2000) 「満洲語文語におけるアオ系統の色彩語について」『アジア・アフリカ文法研究』29: 131-166.
- 和田景子 (2013) 『『漢清文鑑』における満洲語のハングル表記：特に満洲語の文字連続 CVwV を中心に』寺村政男 (編) 『大東文化大学日本語学科 20 周年記念論文集』244-255. 東京：大東文化大学日本語学科.

<韓国語文献>

- 김주원(1990) 「만주어 모음체계의 변천에 대하여」『알타이학보』2: 1-26.

성백인(1984) 「譯學書에 나타난 訓民正音 使用: 司譯院 清學書의 만주어 한글 표기에 대하여」 『한국문화』 5: 21-63.

邵磊(2011) 「『漢清文鑑』을 통해 본 滿文의 한글表記法」 『中韓文化關係國際學術會議論文集』 290-308.

< 中国語文献 >

崔宰宇 (1997) 「『漢清文鑑』의 編排體例和 語音轉寫」 『中央民族大學學報 (社會科學版)』 1997(3): 82-89.

胡增益 (主編) (2020) 『新滿漢大詞典 (第 2 版)』 北京: 商務印書館.

邵磊 (2016) 「清-朝鮮時期漢·滿·韓互譯中的文字對音: 以『漢清文鑑』滿文的韓文表記法為例」 『編譯論叢』 9(2): 57-92.

邵磊·多麗梅 (2022) 「海外中國典籍的多語轉寫研究: 以『清語老乞大』漢語-滿文的朝鮮文轉寫為例」 『東方語言學』 2022(2): 17-25.

邵磊·多麗梅 (2023) 「『三譯總解』滿文的朝鮮文轉寫研究」 『滿學研究』 2023: 195-204.

邵磊·金龍軍 (2022) 「清代滿朝對音文獻中的特殊轉寫: 以滿文-w 系復元音的朝鮮文轉寫為中心」 『民族翻譯』 2022(4): 77-86.

邵磊·林茶英 (2022) 「論朝鮮清學書滿朝對音中的音節對稱與不對稱」 『滿語研究』 2022(2): 69-74.

邵磊·任國俊 (2023) 「清學書中的朝鮮文『圈點字』研究」 『民族翻譯』 2023(3): 78-88.

邵磊·王敵非 (2022) 「『清語老乞大』滿文的朝鮮文轉寫研究」 『滿族研究』 2022(2): 89-95.

王敵非 (2013) 「『清語老乞大』滿朝對音研究」 『黑龍江民族叢刊』 2013(6): 155-158.

< 英語·ドイツ語文献 >

Durrant, Stephen W. (1978) Repetition in the Manchu origin myth as a feature of oral narrative. *Central Asiatic Journal*. 22(1/2): 32-43.

Hauer, Erich. (2007) *Handwörterbuch der Mandschusprache, 2., durchgesehene und erweiterte Auflage herausgegeben von Oliver Corff*. Wiesbaden: Harrassowitz.

Ikegami, Jiro. (1990) Significance of Korean materials in the study of Manchu. *Altai Hakpo*. 2: 71-77.

Lie, Hiu. (1972) *Die Mandschu-Sprachkunde in Korea*. Bloomington: Indiana University.

Norman, Jerry. (2013) *A Comprehensive Manchu-English Dictionary*. Cambridge, Massachusetts: Harvard University Asia Center.

Smith, Carlota S. (1997) *The Parameter of Aspect*. Second edition. Dordrecht: Kluwer Academic Publishers.

Stary, Giovanni. (2008) A preliminary note on the Manchu versions of Qianlong's poetical collection *Quanyun Shi*. *Письменные памятники Востока*. 1(8): 100-104.

Yang, Jaeyeong. (2025) *Diachronic Morphology of Consonantal Stems in Jurchen and Manchu*. Ph.D. dissertation, Seoul National University.

< ロシア語文献 >

Захаров, И.И. (1875) *Полный Маньчжурско-Русский Словарь*. СПб.: Типография Императорской Академии Наукъ.

An Index to the Written Manchu Words Transcribed in Hangul
in the Eighth Volume of *Sam-yŏk Ch'ong-hae*

Haibo WANG
(Lingnan Normal University)

Keywords: *Sam-yŏk Ch'ong-hae*, Hangul Transcription, Written Manchu

Sam-yŏk Ch'ong-hae is one of the books compiled by the Bureau of Interpreters during the Joseon Dynasty in Korea. In this work, Written Manchu words were recorded in both the Manchu script and the Hangul transcription. Notably, the Hangul transcriptions do not always correspond directly to their Manchu script counterparts, suggesting that they may reflect phonetic nuances not fully represented in the Manchu script. This paper presents a Möllendorff-transcription-based index of Written Manchu words found in the eighth volume of *Sam-yŏk Ch'ong-hae*. By aligning the Hangul transcriptions with their equivalents in the Manchu script (represented in Möllendorff transcription), the index serves as a practical reference for exploring script correspondences and phonological details of Written Manchu.

(おう・かいは boljon@163.com)